

平成26年度

事業報告書(案)および決算報告書(案)

平成26年4月 1日から
平成27年3月31日まで

公益財団法人 日本ソフトテニス連盟

【目次】

○事業報告

I. ソフトテニスの普及振興事業

1 ソフトテニス競技規則等の制定事業	1
2 全日本ソフトテニス選手権大会等開催	1
3 地域ソフトテニス大会支援	3
4 加盟団体が行うソフトテニスの競技力向上と普及振興支援	3
5 ソフトテニスの広報活動	4
6 ソフトテニスの表彰・顕彰	5～17
7 ソフトテニスの技術等級・指導員資格認定に関する事業	18
8 ソフトテニスの審判員資格認定に関する事業	18～19
9 ソフトテニス用具・用品、施設の公認	19

II. ソフトテニスの競技力向上事業

1 ソフトテニスの競技力向上、医科学研究調査	19～28
2 ソフトテニスの指導者育成	28～29

III. ソフトテニスの国際振興事業

1 ソフトテニスの国際振興	29～32
---------------	-------

[各事業を推進するための組織と財政の強化]

1. 組織と財政の強化	32
1 組織と財政の強化の推進	32
2 環境と教育への取組み	32
3 会員登録制度の推進	32
4 暴力行為の根絶	33
5 ソフトテニス創始 130 周年(日本連盟創立 90 周年)記念事業実施	33
6 長期基本計画 2012 の推進	33

(庶務事項)

1 評議員会に関する事項	34
2 理事会に関する事項	34～36
3 業務執行理事会議に関する事項	36
4 役員選考委員会に関する事項	37
5 専門委員会等に関する事項	37～39
6 その他会議等に関する事項	39
7 役員・事務局職員に関する事項	40～49
8 会員登録に関する事項	50
9 分担金に関する事項	50～52
10 補助金・助成金等に関する事項	52～53

11 寄付金・協賛金に関する事項	53
12 傷害補償制度の給付金に関する事項	54
別表1～4（大会一覧表・技術等級認定実績・公認審判員認定実績・会員登録実績）	55～61

○決算報告書

1. 財務諸表等

(1) 貸借対照表	64
(2) 正味財産増減計算書	65
(3) 正味財産増減計算書内訳書	66～67
(4) 財務諸表の注記	68～70
(5) 附属明細書	71
(6) 財産目録	72

独立監査人の監査報告書	73～74
-------------	-------

監査報告書	75
-------	----

1 事業報告

本連盟は、昭和 58 年（1983 年度）以来、ソフトテニスの抱える現状や課題に対応すると共に、ソフトテニスの一層の普及振興を図るため、将来像の基本となる方向性を示す長期基本計画を策定し、その方針に沿って総合的かつ計画的に取り組んできた。

前長期基本計画は、平成 23 年度（2011 年度）をもってその計画期間が終了したため、計画の達成状況や課題を踏まえて、平成 24 年度（2012 年度）から平成 28 年度（2016 年度）を計画期間とする「ソフトテニス長期基本計画 2012」を策定し、新たにスタートした。

平成 26 年度の事業遂行にあたっては、長期基本計画 2012 の中間の年と位置付け、ソフトテニスの普及振興を図り、国民の心身の健全な発達に寄与することを目的として、公益財団法人として、高い社会的信用を維持し、次の諸事業を積極的かつ効果的に実施した。

I. ソフトテニスの普及振興事業

1. ソフトテニス競技規則等の制定事業

- (1) ソフトテニス競技（ダブルス・シングルス）を実施するために必要な競技規則を定めることを目的として、ソフトテニスの振興と競技性の向上等、より安全に楽しく競技できるよう必要に応じて検討を行い、ソフトテニスハンドブック（競技規則・審判規則・大会運営規則）やジュニア審判マニュアルに反映することとしている。

①ジュニア低学年用の審判マニュアルを検討し原案を作成した。

②講習内容の統一と審判員の資質向上を図るため、審判講習会用資料（パワーポイント）を作成した。

③競技規則の改訂の検討を進めた。

公共施設を活用するにあたり、ソフトテニスとテニス異なる施設基準となっているため、様々な場面で不都合が生じているので、安全性を考慮しつつ施設基準（アウトコート）を共通化するための検討を進めている。

- (2) 日本で発祥した競技であることから、国際ソフトテニス連盟（以下 ISTF）やアジアソフトテニス連盟（以下 ASTF）における中心的なリーダー国として国際競技規則との整合性を図ると共に、英語版審判技術マニュアル(DVD)等を活用して国際普及を図った。

①国際競技規則の改訂の検討を進めた。

世界各国に設置されているテニスコートに合わせた施設基準（アウトコート）に改訂し、国際大会の実施に支障が無いようにすることを ISTF に提言すべく検討を進めている。

2. 全日本ソフトテニス選手権大会等開催

- (1) 国内競技会を大会実施要項に基づき実施した。

①別表 1（P55～58）のと通りの大会日程および会場で実施した。

②大会要項の改訂を実施した。

・国民体育大会についての対応

ア. 平成 27 年度の和歌山国体からシングルスを実施する。

イ. 全種別へ監督を配置し、他種別との兼務は行わない。

ウ. 種別参加チーム数のローテーションを実施する。

③日本スポーツ振興センターの助成事業として以下の大会を実施した。

- | | |
|-----------------------------------|-----------------|
| ア. JOC ジュニアオリンピックカップ大会/全日本ジュニア選手権 | 助成金 1,160,000 円 |
| イ. 天皇賜杯皇后賜杯全日本選手権大会 | 助成金 2,000,000 円 |

(2) 大会の検討と大会運営の改善

①全日本選手権大会の検討

- ・NHK 放送を考慮した会場の基準や進行等を工夫して「するスポーツ」と「見るスポーツ」双方を向上させるための検討を継続して行った。

②新規全日本大会の検討

- ・以下の新規大会創設の案を策定し、開催の検討を行った。
 - ア. 全日本社会人団体選手権大会
実業団とクラブチームによる大会の検討を行った。
 - イ. 全日本団体総合選手権大会
高校、大学、社会人の代表による大会の検討を行った。
 - ウ. 全日本混合ダブルス選手権大会
全日本シニア選手権大会から独立し、一般、成年種別を含めた大会とする方向で検討した。

③JOC ジュニアオリンピックカップ大会全日本ジュニア選手権大会

- ・ダブルス種目追加の検討を行い、27 年度から実施する。

④全日本シングルス選手権大会

- ・参加枠の変更の検討を行った。

⑤北海道の大会参加枠

- ・支部とブロックの重複の是正を検討し、27 年度から以下の大会で実施する。
全日本シングルス選手権、全日本社会人選手権大会、全日本選手権大会

⑥日本スポーツマスターズの充実

- ・日本スポーツマスターズ参加者の負担軽減等を行い、全都道府県の参加を目指して大会の充実を図った。
- ・30 支部×@100,000 円の助成を行った。

⑦大会参加申込のシステム化

- ・平成 24 年度からの主催大会の参加申込システム活用により、参加資格のチェック等による事務負担の軽減と参加申込の効率化を図った。併せて支部大会申込のシステムを完成させ、平成 27 年度から活用できる様にした。

⑧主催大会開催地への支援

- ・主催大会を主管し、実質的に運営している開催地の運営状況等を的確に把握し、主要事業である大会が円滑に運営されるように支援した。

⑨主催大会運営における役割分担の明確化

- ・円滑な大会運営を行うため日本連盟と主管支部の大会開催にあたっての役割分担の明確化について検討した。

⑩ゼッケンの統一化

- ・日本連盟主催大会において、ゼッケンを着用し、プレーをしている選手が誰からも分かる様にした。
- ・中学生については、平成 26 年度より日本ソフトテニス連盟仕様に統一に向けて取り組み、平成 28

年度に統一を完了する。高校生についても26年度日本ソフトテニス連盟仕様に統一に向けて協議し、27年度高校総体において統一することとなった。

⑪簡易得点板の設置

- ・日本連盟主催大会において簡易得点板の設置を開始し、進行状況が誰でもわかるように進めた。

3. 地域ソフトテニス大会支援

(1) 地域等における競技会開催に、次のとおり補助を行った。

①9 地区選手権大会

- ・9地区×200,000円を助成した。

②地区高校選抜大会

- ・9地区×100,000円を助成した。

③10 地区中学選手権大会

- ・10地区×100,000円を助成した。

④壮年東西対抗大会

- ・200,000円を助成した。

⑤超壮年東西対抗大会

- ・200,000円を助成した。

⑥全日本学生同好会大会

- ・200,000円を助成した。

4. 加盟団体が行うソフトテニスの競技力向上と普及振興支援

(1) 地域グループ育成のため、次の事業を実施した。

①地域クラブ・ジュニアクラブ等の育成

- ・地域クラブ、ジュニアクラブ等の育成の充実を図ることを目的として、各支部に対し会員登録料から下記の率により助成した。

(一般20%、高校生10%、高専10%、中学生20%、小学生50%)

②支部中学校大会への補助

- ・47支部×@30,000円を助成した。

③支部小学生大会への補助

- ・47支部×@30,000円を助成した。

④ソフトテニス週間の実施

- ・10月の体育の日(月)を中心とした週(金曜日から木曜日)をソフトテニス週間として定め、全国で一斉にソフトテニスを楽しみアピールした。

46支部×@100,000円を助成した。

⑤ソフトテニス愛好者増加対策

- ・中学校部活動引退後の練習場所を確保し、引退後もプレーできる環境を提供し、またレディースを含めた社会人を対象として支部が実施する愛好者増加対策事業を支援した。

46支部×@150,000円を助成した。

- ・日本連盟で作成した指導教本(DVD BOOK)を活用して、愛好者増加に不可欠な指導者に指導法を提供し、愛好者の指導に貢献、協力してもらった。

⑥指導者バンク（地域）の活用促進

- ・積極的に指導者バンク（地域）を活用し、競技者育成プログラム（Step-1,2）の推進および、中学校・高校の指導者不足を解消する等、普及を担う指導者を確保・活用した。

⑦ 総合型地域スポーツクラブの研究

- ・ソフトテニス総合型地域スポーツクラブに参画するための研究を進めた。

⑧傷害補償制度の徹底

- ・制度の目的、趣旨を会員報・ホームページ等を利用して分かり易く伝え制度活用の推進を図った。

5. ソフトテニスの広報活動

(1) メディア対策

①新聞報道の充実

- ・新聞報道対応マニュアルを活用した。

②テレビ放映の充実

- ・平成13年から継続している全日本選手権大会のNHKテレビ放送を14回連続実現した。
- ・NHK,民放への積極的課題提供を行った。

③その他メディア対策

- ・ソフトテニスの映画公開及び漫画・指導教本の制作について、そのチラシを全国15,000の加盟団体に直接配布、ホームページ等に掲載、全国の書店で販売するなど広くソフトテニスをアピールし、その話題を各種報道機関に提供する広報活動を行った。

(2) ホームページの運営

①ホームページ等の充実

- ・日本連盟ホームページの充実と積極的活用を行った。
- ・日本連盟テレビ局及び各支部テレビ局の映像を通して、積極的な動画配信の広報活動を展開した。
- ・過去の日本連盟主催大会の映像が、いつでも見られるように動画ライブラリーを推進し効果的広報を展開した。
- ・日本連盟ホームページ(英語版)とアジア連盟ホームページから国際情報を積極的に発信した。

(3) 広報誌発行

①機関誌「ソフトテニス」の毎月発行

- ・内容の充実と購読者募集を行った。

購読者数	支部購読	1,370名	個人購読	294名
(平成25年度)	支部購読	1,352名	個人購読	348名

②会員報を年2回発行した。

③平成26年大会記録集を作成し、支部・報道機関等へ配布した。

(4) 「ソフトテニスの歌」の活用

- ・日本連盟主催事業での活用と、全国各地域での普及を図った。

(5) ソフトテニスのアピールと周知

①ソフトテニスの映画・漫画・指導教本(DVD BOOK)の制作

- ・2020年の東京オリンピックを見据え、ソフトテニスを広くアピールするため、ソフトテニスの指導教本(DVD BOOK)、映画、漫画、の3点セットを制作した。指導教本と漫画は全国の1,500の書店を通じて販売を開始し、映画は平成27年4月4日より全国で一斉公開する。

②マスコットキャラクターの制作

- ・日本ソフトテニス連盟創立90周年を記念し、広報手段としてのマスコットキャラクターを製作。愛称については公募の結果「そふていー」に決定。平成27年3月の都道府県対抗全日本中学生大会、全国小学生大会より大会会場にてデビューした。

6. ソフトテニスの表彰・顕彰

平成26年11月30日の評議員会に先立ち、平成26年度の表彰式を執り行い566名の個人及び43団体の受賞に対して、本部功労者の山本毅氏（京都府）が表彰盾を、支部功労者を代表して中村進氏（埼玉県）、優良団体を代表して落合敏男氏（静岡県）、優秀監督および最優秀選手を代表して佐藤健司氏（日本体育大学）、ランキング選手を代表して阿部悠梨氏（ナガセケンコー）に表孟宏会長から賞状等を授与した。

表彰の内訳は、次のとおりである。

1	本部功労賞	1名
2	支部功労賞	89名
3	優良団体	43団体
4	優秀監督	18名
5	優秀選手	12名
6	ランキング	446名
7	読売スポーツ賞	1チーム（2名）

[表彰者名簿]

- 本部功労者 山本 毅（日本連盟監事、京都府連盟理事長）
- 支部功労者 別紙参照
- 優秀監督および優秀選手
 - 最優秀監督 実業団 男子 堀 晃大（NTT西日本広島）
女子 大庭彩加（NTT西日本広島）
 - 大 学 男子 小野寺 剛（早稲田大学）
女子 佐藤健司（日本体育大学）
 - 高 校 男子 中津川澄男（東北高等学校）
女子 垂髪隆一（学校法人梅村学園三重高等学校）
 - 中 学 男子 小牧幸二（上宮中学校）
女子 新本弘司（鈴峯女子中学校）
 - 小学生 男子 木上 剛（和歌山県）
女子 橋本孝明（岡山県）
 - 優秀監督 実業団 男子 玉岡良仁（京都市役所）
女子 金治義昭（東芝姫路）
 - 大 学 男子 佐藤健司（日本体育大学）
女子 小野寺 剛（早稲田大学）
 - 高 校 男子 紙森隆弘（大和高田市立高田商業高等学校）
女子 外 蘭 茂（中村学園女子高等学校）
 - 中 学 男子 小豆畑隆則（西郷村立西郷第一中学校）

- | | | | | |
|----------------------|-------|----|------------|----------------|
| | | 女子 | 辻 慶一 | (和歌山信愛中学校) |
| | 小学生 | 男子 | 花園安紀 | (東京都) |
| | | 女子 | 山本貴大 | (鳥取県) |
| 最優秀選手 | 男子 | | 水澤悠太・長江光一 | (NTT 西日本広島) |
| | 女子 | | 佐々木舞・大庭彩加 | (NTT 西日本広島) |
| 優秀選手 | 男子 | | 篠原秀典・小林幸司 | (日体桜友会・ミズノ) |
| | 女子 | | 小林奈央・平久保安純 | (早稲田大学) |
| 敢闘選手 | 男子 | | 増田健人・柴田章平 | (和歌山県庁・同志社クラブ) |
| | 女子 | | 横山温香・阿部悠梨 | (ナガセケンコー) |
| 4. 優良団体 | | | 別紙参照 | |
| 5. ランキング選手 | | | 別紙参照 | |
| 6. 読売スポーツ賞 | | | 佐々木舞・大庭彩加 | (NTT 西日本広島) |
| 7. JOC ジュニアオリンピックカップ | | | | |
| | 最優秀選手 | 男子 | 船水颯人 | (東北高等学校) |
| | | 女子 | 中川瑞貴 | (ナガセケンコー) |
| 8. 国際大会入賞者 | | | 別紙参照 | |

平成26年度 支部功労者・優良団体

	支部名	支部功労者	支部功労者	優良団体
1	北海道	小西慶明	藤井謙和	札幌ソフトテニス連盟
2	青森	太田聖子	梅津敏明	白鳥クラブ
3	岩手	高橋南枝	小原智子	住田町ソフトテニス協会
4	宮城	小野寺真智子	小林かつ子	志波姫S Tスポーツ少年団
5	秋田	柳山孝夫	伊藤清幸	南外ジュニアソフトテニススポーツ少年団
6	山形	孫田淳	丸藤亮	—————
7	福島	村田功	遠藤雄一	蔵の町テニスクラブ
8	茨城	根本博樹	杉山靖	筑西ソフトテニスクラブ
9	栃木	加藤實	菅弘武	栃木県立栃木工業高等学校ソフトテニス部
10	群馬	藤井清一	川田佳和	伊勢崎フレンズ
11	埼玉	亀村賢治	中村進	所沢市民ソフトテニスクラブ
12	千葉	秦野伸一	小林芳雄	こてはし台クラブ
13	東京	小野寺剛	成島厚子	旭テニスクラブ
14	神奈川	友近俊輔	柿本隆夫	ピンボンバンクラブ
15	山梨	萱沼益夫	深沢典夫	甲斐市立双葉中学校
16	新潟	山寺律雄	渡部悟志	新発田中央高等学校
17	長野	永野和睦	関島栄一	松商学園高等学校女子ソフトテニス部
18	富山	荒井謙三	堀八千代	高岡商業高等学校男子ソフトテニス部
19	石川	森田俊文	四家幸夫	—————
20	福井	池田秀樹	高野博一	金津高等学校男子ソフトテニス部
21	静岡	鈴木敏幸	野田英明	富士宮ソフトテニス友の会
22	愛知	前畑幸成	近藤年文	岡崎城西高等学校
23	三重	丸山隆弘	—————	桑名ジュニアソフトテニスクラブ
24	岐阜	岩島卓郎	加藤茂	多治見クラブ
25	滋賀	大井克己	吉光昭	高島市ソフトテニス協会
26	京都	川崎哲郎	—————	洛西ソフトテニスクラブ
27	大阪	谷尾敏雄	加藤教恵	住吉クラブ
28	兵庫	横田浩之	水田孝	上郡ジュニアソフトテニスクラブ
29	奈良	野田美代子	梅野千江子	王寺ジュニアソフトテニスクラブ
30	和歌山	溝渕俊二	松岡智央	印南ジュニアソフトテニスクラブ
31	鳥取	濱橋明代	小田昌武	—————
32	島根	臼井泉	—————	島根県立松江工業高等学校ソフトテニス部
33	岡山	木科孝夫	富部昌仁	永謳クラブ
34	広島	松下武雄	新見秀夫	五日市ソフトテニスクラブ
35	山口	松田秀樹	奥住正信	下松ジュニアソフトテニスクラブ
36	徳島	矢田喜久	野村光繁	阿波ジュニアソフトテニスクラブ
37	香川	平山洋子	—————	ファミリークラブ
38	愛媛	河野信一	玉井誠治	住友化学愛媛
39	高知	土居大語	黒石正雄	波多クラブ
40	福岡	鶴崎剛	猿島早生	戸畑クラブ
41	佐賀	中山九一	平野幸子	J Aさが 佐賀県農業協同組合
42	長崎	緒方好子	原口雅瑞	諫早市立諫早中学校ソフトテニス部
43	熊本	吉田幸一	作増武男	熊本県立天草工業高等学校
44	大分	平原英和	大久保昭雄	—————
45	宮崎	長田靖	垣副加世子	清武中学校男子ソフトテニス部
46	鹿児島	山口四郎	平岡修	伊敷クラブ
47	沖縄	真喜志美千代	—————	名護スポーツ
	合計		89 名	43 団体

平成26年度 ソフトテニスランキング

総 合 男 子				総 合 女 子			
1	水澤 悠太 長江 光一	広島	NTT西日本広島	1	佐々木 舞 大庭 彩加	広島	NTT西日本広島
2	篠原 秀典 小林 幸司	東京	日体桜友会 ミズノ	2	小林 奈央 平久保 安純	学連	早稲田大学
3	増田 健人 柴田 章平	和歌山 京都	和歌山県庁 同志社クラブ	3	横山 温香 阿部 悠梨	東京	ナガセケンコー
4	船水 雄太 九島 一馬	学連	早稲田大学	4	柿崎 あやの 神谷 絵梨奈	東京	ヨネックス
5	小栗 元貴 高月 拓磨	学連	早稲田大学	5	森田 奈緒 山下 ひかる	東京	ヨネックス
6	丸中 大明 鈴木 琢巳	学連	中央大学	6	中野 優 小林 美咲	広島	ロジコム NTT西日本広島
7	丸岡 俊介 宮田 裕章	高体連	尽誠学園高等学校	7	深澤 昭恵 森原 可奈	兵庫	東芝姫路
8	村上 雄人 中本 圭哉	広島	NTT西日本広島	8	原野 亜衣 米山 芽玖	福島	ダンロップ
9	十津川 将義 木川 拓也	学連	中央大学	9	宮代 恵実 石山 千晴	京都	ワタキューセイモア
10	稲積 京之介 井口 雄一	東京 宮崎	ミズノ スマッシュイグチクラブ	9	杉脇 麻侑子 佐々木 聖花	学連	早稲田大学

平成26年度 ソフトテニスランキング

社 会 人 男 子				社 会 人 女 子			
1	篠原 秀典 小林 幸司	東 京	日体桜友会 ミズノ	1	横山 温香 阿部 悠梨	東 京	ナガセケンコー
2	村上 雄人 中本 圭哉	広 島	NTT西日本広島	2	森田 奈緒 山下 ひかる	東 京	ヨネックス
3	井坂 建史 鷺谷 裕	茨 城	Vandaいばらき	3	徳川 愛実 藤崎 安葉	富 山	タカギセイコー 高岡市連盟
3	稲積 京之介 井口 雄一	東 京 宮 崎	ミズノ スマッシュイグチクラブ	3	原野 亜衣 米山 芽玖	福 島	ダンロップ
5	菅野 創世 泉山 翔太	埼 玉 岩 手	川口市役所 見前STC	5	北浦 有華 石山 千晴	京 都	ワタキューセイモア
5	増田 健人 柴田 章平	和 歌 山 京 都	和歌山県庁 同志社クラブ	5	横山 花純 須藤 冴佳	愛 知	アドマテックス
5	品川 貴紀 川淵 泰直	福 井 東 京	福井STクラブ ヨネックス	5	柿崎 あやの 神谷 絵梨奈	東 京	ヨネックス
5	村田 直樹 杉尾 卓馬	岐 阜	大鹿印刷	5	若田 実友子 百田 志穂	兵 庫	東芝姫路

成 年 男 子				成 年 女 子			
1	新田 貴徳 横石 智	徳 島	徳島市役所 抽栄会	1	高井 志保 住友 友里	大 阪 徳 島	吹田クラブ 大神子病院
2	渡部 繁樹 末吉 巖	愛 知	朝日STC デンソー	2	足利 奈央 岡 夕香	岡 山	クラレ岡山
3	片峯 俊和 篠原 和彦	福 岡	TOTO	3	酒井 貴子 花園 安紀	東 京	BLUE TAKAX 杉並文化クラブ
3	石井 靖浩 奥村 陸矢	岡 山 福 岡	JX日鉱日石エネルギー水島製油所 福岡ゴーセン	3	荒木 昭子 矢崎 美穂	東 京	杉並文化クラブ

平成26年度 ソフトテニスランキング

シニア男子 4 5				シニア女子 4 5			
1	上松 明裕 橋本 康徳	岡山 京都	岡山市役所 京都市役所	1	片山 順子 中牟田 千恵	福岡	福大クラブ
2	佐々木 賀朗 田中 彰司	大阪 京都	堺連盟 JT関西	2	山本 有美 福士 聡子	東京	杉並文化クラブ ミドウクラブ
3	菊池 清彦 福山 貴男	埼玉	深谷クラブ	3	太田 郁子 池上 京子	長野	飯田STA 伊那STA
3	梅根 裕一 相模 崇典	北海道 東京	札幌学院クラブ 睦クラブ	3	宮尾 真由美 平山 浩子	埼玉	所沢ペアート

シニア男子 5 0				シニア女子 5 0			
1	小関 覚 小野 吉則	埼玉	椎之木クラブ 上福岡クラブ	1	上山 親子 藤井 春美	大阪 奈良	ファニー T・Mクラブ
2	千葉 英明 畑山 浩志	宮城	宮城教員クラブ	2	近藤 貴予 落合 千春	東京	武蔵野クラブ 台東グリーン
3	富澤 裕次郎 加藤 信弘	福岡 愛知	サンデークラブ 葵クラブ	3	鈴木 明美 江口 京子	新潟 埼玉	長岡レモンクラブ 川口クラブ
3	山田 浩一 堀 貴次	石川	北陸電力石川 NTT西日本金沢	3	北中 あけみ 山本 美樹	大阪	箕面サングリーン 吹田クラブ

シニア男子 5 5				シニア女子 5 5			
1	鈴木 義之 指宿 睦仁	兵庫	西脇クラブ 高丘クラブ	1	江利角 富美子 安達 伸子	大分	スポーツマンシップ
2	大塚 喜彦 玉岡 良仁	兵庫 京都	神戸山手クラブ 京都市役所	2	稲田 和子 桑園 礼子	兵庫 熊本	三田クラブ 松橋クラブ
3	井場 勉 東 進一	広島 兵庫	新広クラブ 芦屋クラブ	3	八幡 みさ子 伴戸 明己	島根 北海道	一の谷クラブ リバティクラブ
3	松本 優 大川 尚洋	岡山 愛知	高梁協会 ウイングクラブ	3	樋口 紀代美 森本 みどり	静岡	下田市協会 葵クラブ

シニア男子 6 0				シニア女子 6 0			
1	常久 正則 直原 隆司	岡山 広島	岡山南高クラブ 広友会	1	増田 加奈 苅谷 さと志	愛知	岡崎バード 一宮花・花
2	小早川 卓也 高原 一郎	奈良 大阪	檀原クラブ 八尾市協会	2	尾張 由美 宮内 悦子	愛知 鹿児島	岡崎レディスクラブ ひまわりクラブ
3	新開 均 高田 隆行	徳島 大阪	永遠クラブ 吹田クラブ	3	高橋 道子 金野 英子	埼玉	所沢ペアート ふじみ野OTA
3	篠邊 保 松村 俊介	愛知 熊本	東邦ガス 松橋クラブ	3	中田 三千恵 阿部 新子	東京 愛知	朝日生命クラブ 森林クラブ

平成26年度 ソフトテニスランキング

シニア男子 65				シニア女子 65			
1	木藤 勝敏 熊田 章甫	大阪 岐阜	大阪OB軟庭会 TEAM KUMA	1	大塚 恵美子 林 孝江	群馬 埼玉	高崎中央クラブ 川口クラブ
2	辻 憲三 南出 英正	和歌山	教友クラブ	2	小谷 苑子 夏原 麗子	東京 千葉	葛飾クラブ 浦安会
3	袴田 文雄 菅野 勝郎	秋田 岩手	能代支部 陸前高田市協会	3	城所 房子 田口 佐代子	愛知	すみれクラブ
3	石川 浩三 清 永武	京都 滋賀	衣笠クラブ 守山STC	3	若松 澄子 佐々木 公子	秋田 岩手	若葉クラブ 一関市協会

シニア男子 70				シニア女子 70			
1	玉野 寿一 高田 晴隆	東京	わいわいクラブ 言問庭球クラブ	1	高羽 邦子 山田 悦子	大阪	堺ミルフィーズ 東大阪アミー
2	長門 忍 西崎 真佐男	愛知	桜クラブ	2	鎌田 寛子 横野 久美子	愛媛 愛知	愛媛レディース協会 すみれクラブ
3	藤沼 宣弘 澤村 祐毅	栃木	宝木クラブ 富士見が丘クラブ	3	廣田 秀子 野室 弘子	鳥取	OC連盟鳥取
3	望月 幹夫 木本 有信	埼玉 岐阜	浦和フレンドリー 太平洋工業	3	屋宮 規子 井上 里枝	千葉	天台クラブ ときわ平クラブ

シニア男子 75				シニア女子 75			
1	辻井 平三 平野 雄司	大阪	ゴーセン 南大阪クラブ	1	住友 康江 福田 久恵	兵庫 大阪	すずらんクラブ 枚方市連盟
2	辻 喜千治 森 武三	愛媛 広島	大洲連盟 福山シニアクラブ	2	大久保 初子 関 寿子	愛知 東京	すみれクラブ 寿美礼クラブ
3	堤 国彦 宮崎 博一	京都 大阪	朝霧クラブ 大阪庭球倶楽部	3	鵜川 千年 水越 富士子	大阪	サンレディース 高槻クラブ
3	森本 弘祐 住司 英雄	千葉	湖北台クラブ ときわ平クラブ	3	内海 静枝 鈴木 洋子	東京 福島	世田谷 いわきママクラブ

シニア男子 80			
1	田万 豊廣 大西 貞夫	香川 大阪	亀城クラブ 大阪市役所
2	鶴 亦雄 明井 雄二	長崎 京都	大村市協会 同志社クラブ
3	余田 尚正 松尾 武雄	大阪	八尾市協会 大阪庭球倶楽部

平成26年度 ソフトテニスランキング

シニア混合 4 5				シニア混合 5 0			
1	濱田 英明 花園 安紀	東京	練馬ソフト 杉並文化クラブ	1	大谷 美佐 大谷 本満裕	徳島	阿南クラブ 大神子病院
2	中村 早智 海 口 真	大阪 広島	堺ミルフィーズ 広島中央クラブ	2	川野 辺武 中山 広子	埼玉	久喜栗橋テニス 天沼ファミリー
3	兒玉 美幸 藤井 忠彦	愛知	大府市連盟 知立連盟	3	三尾 浩二 大嶋 美智子	愛知	三菱名古屋 春日井クラブ
3	井上 茂雄 平山 浩子	東京 埼玉	旭テニス 所沢ペアート	3	安藤 光基 石川 美喜代	愛知	西尾協会 碧南市協会

シニア混合 5 5				シニア混合 6 0			
1	小林 孝志 小林 きみ子	埼玉	秩父COCクラブ	1	岩瀬 善雄 岩原 慶子	愛知	西尾協会 岡崎レディースクラブ
2	清水 さかゑ 津吉 信也	千葉 愛媛	市原ドリーム 今治連盟	2	後藤 終子 信川 敏郎	愛知	すみれクラブ 岡崎壮年クラブ
3	松本 厚子 片山 栄二郎	岡山	高梁協会 粒江クラブ	3	尾張 由美 松本 一男	愛知	岡崎レディースクラブ 三菱名古屋
3	森脇 孝吉 伴戸 明己	島根 北海道	斐川クラブ リバティクラブ	3	新開 均 犬伏 恵美子	徳島	永遠クラブ 徳島抽栄会

シニア混合 6 5			
1	土屋 勝 横野 久美子	大阪 愛知	吹田クラブ すみれクラブ
2	福田 寛巳 杉内 昭代	鳥取 徳島	鳥取久松クラブ 徳島庭球倶楽部
3	永田 仁 行方 裕子	千葉	佐原クラブ ふれあいクラブ
3	中西 敏之 岩佐 照代	兵庫	神戸松風クラブ 東灘クラブ

平成26年度 ソフトテニスランキング

ジュニアシングルスU - 14男子				ジュニアシングルスU - 14女子			
1	北野 亮介	福島	西郷第一中学校	1	浅見 今日子	兵庫	生野ジュニアクラブ
2	林 湧太郎	福岡	吉富中学校	2	矢作 舞彩	埼玉	戸塚中学校
3	伊藤 端哉	岐阜	多治見中学校	3	徳永 栞波	岡山	倉敷ジュニアクラブ
3	田中 駿平	大阪	上宮中学校	3	藤原 麻央	岡山	倉敷ジュニアクラブ

ジュニアシングルスU - 17男子				ジュニアシングルスU - 17女子			
1	上松 俊貴	岡山	岡山理科大学附属高等学校	1	貝瀬 ほのか	和歌山	和歌山信愛高等学校
2	内田 理久	三重	三重高等学校	2	花園 優帆	東京	国本女子高等学校
3	長尾 景陽	岡山	岡山理科大学附属高等学校	3	福田 麗優	秋田	大曲中学校
3	広岡 宙	大阪	上宮中学校	3	清水 彩	三重	三重高等学校

ジュニアシングルスU - 20男子				ジュニアシングルスU - 20女子			
1	船水 颯人	宮城	東北高等学校	1	中川 瑞貴	東京	ナガセケンコー
2	井原 陽平	学連	同志社大学	2	若田 実友子	兵庫	東芝姫路
3	立木 雅也	岐阜	中京高等学校	3	小路 彩佳	鹿児島	城山観光ホテル
3	塩田 顕	学連	日本体育大学	3	百田 琴音	福岡	中村学園女子高等学校

平成26年度 ソフトテニスランキング

男子シングルス				女子シングルス			
1	長江 光一	広島	NTT西日本広島	1	大庭 彩加	広島	NTT西日本広島
2	岡本 光生	学連	日本体育大学	2	小谷 菜津美	福島	ダンロップ
3	小栗 元貴	学連	早稲田大学	3	比 永 有美	京都	ワタキューセイモア
3	船水 雄太	学連	早稲田大学	3	柿崎 あやの	東京	ヨネックス
5	丸中 大明	学連	中央大学	5	平久保 安純	学連	早稲田大学
5	増田 健人	和歌山	和歌山県庁	5	百田 志穂	兵庫	東芝姫路
5	宮下 裕司	兵庫	姫路アニマルズ	5	中川 瑞貴	東京	ナガセケンコー
5	井口 雄介	学連	日本体育大学	5	水間 奈津紀	広島	NTT西日本広島

大学男子				大学女子			
1	船水 雄太 九島 一馬	学連	早稲田大学	1	小林 奈央 平久保 安純	学連	早稲田大学
2	小栗 元貴 高月 拓磨	学連	早稲田大学	2	杉脇 麻侑子 佐々木 聖花	学連	早稲田大学
3	吉田 雄紀 安藤 圭祐	学連	早稲田大学	3	羽渕 沙由里 高杉 梨奈	学連	東京女子体育大学
3	箱田 剛志 臼井 勇介	学連	中京大学	3	奥村 すずな 黒木 瑠璃華	学連	日本体育大学
5	村田 匠 井口 雄介	学連	日本体育大学	5	佐々木 美和 各務 佳菜	学連	関西大学
5	坪井 雄太 平井 裕之	学連	明治大学	5	濱谷 杏奈 山根 絵莉	学連	神戸松蔭女子学院大学
5	井原 陽平 林 大喜	学連	同志社大学	5	永井 里佳 大槻 麗	学連	早稲田大学
5	須藤 大貴 山本 祐輝	学連	同志社大学	5	笠井 亜樹 須藤 霞	学連	日本体育大学

平成26年度 ソフトテニスランキング

高 校 男 子				高 校 女 子			
1	丸岡俊介 宮田裕章	香川	尽誠学園高等学校	1	西岡真里華 橋本新菜	三重	三重高等学校
2	長尾景陽 杉山奨悟	岡山	岡山理科大学附属高等学校	2	高橋勅有 花園優帆	東京	国本女子高等学校
3	内本隆文 丸山海斗	大阪	上宮高等学校	3	澤本瑠衣 貝瀬ほのか	和歌山	和歌山信愛高等学校
3	田邊雅人 内田理久	三重	三重高等学校	3	藤木陽奈 泉谷朋香	大阪	昇陽高等学校
5	立木雅也 真野文暁	岐阜	中京高等学校	5	小山舞 黒田麻衣	和歌山	和歌山信愛高等学校
5	新子徹 星野慎平	奈良	高田商業高等学校	5	高井紀衣 西口祥加	石川	金沢学院東高等学校
5	平井稜大 田中駿人	兵庫	姫路商業高等学校	5	真島史歩 煤田優希	大分	明豊高等学校
5	掛川巧大 下田和也	群馬	前橋商業高等学校	5	田中純 森佳奈子	奈良	奈良育英高等学校
9	伊藤幹 谷村健太	富山	高岡商業高等学校	9	坂井玲美 森松百花	宮崎	宮崎商業高等学校
9	溝端亮二 西田光貴	奈良	高田商業高等学校	9	三隅はすは 中村日菜子	広島	鈴峯女子高等学校
9	荒木彰吾 焼田郁弥	富山	高岡商業高等学校	9	小林成美 永山緑	東京	文化学園大学 杉並高等学校
9	阿部瑞紀 大谷広夢	徳島	つるぎ高等学校	9	寺戸理紗 中田依緒里	福岡	中村学園女子高等学校
9	船水颯人 大津悠平	宮城	東北高等学校	9	中谷沙希 長内夏海	北海道	札幌龍谷学園高等学校
9	池田侑生 上野壮汰	大阪	上宮高等学校	9	日野尾真代 横山楓	鳥取	米子松陰高等学校
9	遠藤聡一郎 玉置弦也	三重	三重高等学校	9	田辺恵理 岡村葵	新潟	北越高等学校
9	勝山拓海 栗林佑輔	青森	八戸工業大学第一高等学校	9	高橋乃綾 福田瑠愛	北海道	札幌龍谷学園高等学校

平成26年度 ソフトテニスランキング

中 学 男 子				中 学 女 子			
1	高 倉 和 毅 山 根 稔 平	東 京	清明学園中学校	1	下 江 遥 花 浦 口 華 音	兵 庫	太子東中学校
2	上 岡 俊 介 広 岡 宙	大 阪	上宮中学校	2	遠 藤 優 香 島 津 佳 那	東 京	千代田女学園中学校
3	田 島 知 征 齊 藤 汰 地	群 馬	榛名中学校	3	竹 内 湖 乃 実 寺 沢 萌	大 阪	昇陽中学校
3	渡 辺 翔 大 渡 邊 直 生	新 潟	村上東中学校	3	笠 井 奈 々 子 廣 澤 真 衣	広 島	鈴峯女子中学校
5	北 野 亮 介 根 本 大 地	福 島	西郷第一中学校	5	野 町 穂 香 一 刈 薫 実	京 都	京都光華中学校
5	永 田 愉 吉 藤 木 敦 也	千 葉	昭和学院中学校	5	鈴 木 愛 香 石 山 亜 実	新 潟	巻東中学校
5	北 本 達 己 坂 下 耕 介	石 川	寺井中学校	5	横 山 凜 宮 下 こ ころ	石 川	中能登中学校
5	橋 本 和 真 高 木 将 生	埼 玉	岩槻中学校	5	松 永 花 緒 奥 田 結 依	愛 知	加木屋中学校

小 学 男 子				小 学 女 子			
1	矢 野 颯 人 濱 田 祐	和 歌 山	和歌山・橋本ジュニアクラブ L. C. C	1	藤 原 麻 央 徳 永 栞 波	岡 山	倉敷ジュニアクラブ
2	小 平 慶 斗 田 代 陽 己	栃 木	BCファイターズ	2	岡 田 真 凜 岡 田 佳 恋	岡 山	岡山Kidsクラブ
3	浜 田 倫 太 朗 松 村 零 音	石 川	七尾ジュニアクラブ	3	浅 見 今 日 子 松 岡 琴 美	兵 庫	生野ジュニアクラブ
3	松 本 英 士 武 市 大 輝	山 口	下松ジュニアクラブ	3	内 潟 侑 杏 新 蔵 詩 朋	石 川	河北台キッズクラブ
5	北 野 敦 貴 渡 邊 真 尋	福 島	西郷村協会ジュニアクラブ 二本松ジュニアクラブ	5	寺 川 愛 美 根 岸 楓 英 奈	大 阪	岸和田ジュニア
5	林 樹 杏 岩 本 幸 大	三 重	K S T C <small>神内ジュニアクラブスポーツ少年団</small>	5	武 市 明 香 里 樋 口 結 佳	山 口	下松ジュニアクラブ
5	瀬 川 峻 岸 安 井 梧 透	滋 賀	蒲生町スポーツ少年団	5	久 保 田 茜 小 池 優 奈 帆	群 馬	あかぼり J S T
5	米 川 結 翔 玉 出 翔 英	兵 庫	姫路ジュニアクラブ	5	服 部 綾 乃 片 岡 美 紗 希	兵 庫	和田山ジュニアクラブ

国際大会入賞者

第17回アジア競技大会 ソフトテニス競技 (2014/韓国・仁川市)

1 国別対抗 団長：神崎 公宏

準優勝 日本男子チーム

監督：斉藤 広宣 コーチ：中堀 成生 トレーナー：川上 晃司

選手：篠原 秀典・小林 幸司・長江 光一・中本 圭哉・桂 拓也

準優勝 日本女子チーム

監督：田中 弘 コーチ：高川 経生 トレーナー：吉川 友巳奈

選手：森田 奈緒・山下 ひかる・森原 可奈・大庭 彩加・小林 奈央

2 女子ダブルス

第 3 位 森田 奈緒 ・ 山下 ひかる

7. ソフトテニスの技術等級・指導員資格認定に関する事業

(1) 技術等級の認定を次のとおり行った。

(数値：名)

等級	名誉 指導員	Ma	Ex	S-Ex	Sp	S-Sp	1 級	2 級	3 級	4 級	計
平成 26 年度	1	0	78	19	399	13	295	1195	1532	3183	6,715
平成 25 年度	1	0	91	22	344	26	350	1,143	1,585	3,354	6,916

(注) 平成 26 年度都道府県別認定者数は別表 2 (P59) に掲載

(数値：名)

年 度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
人 数	7,545	7,446	6,693	6,527	6,916	6,715

(2) 技術等級システムを活用して認定手続きを行い資格者管理の効率化を図り、大会申込システムと連動して大会参加資格のチェックを行った。

(3) 技術等級資格取得者を増大するため、大会実績による取得の見直しを図った。

8. ソフトテニスの審判員資格認定に関する事業

(1) 公認審判員の認定を次のとおり行った。

(数値：名)

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	
マスター レフェリー	76	75	60	71	41	58	
マスター アンパイヤー	35	23	18	46	45	42	
1 級	352	324	261	232	215	248	
2 級	一 般	9,601	9,577	9,077	9,507	9,380	9,229
	高 校	15,918	17,557	17,574	19,665	18,628	20,256
ジュニア	29,452	31,643	31,318	39,746	36,545	39,657	
計	55,434	59,199	58,308	66,267	64,854	69,490	

(注) 平成 26 年度都道府県別認定者数は別表 3 (P60) に掲載

(2) 1 級審判員の検定会 (参加者：101 名) と研修会 (参加者:185 名) を、次のとおり実施した。

	実施期日	会 場	参加者(名)
検定会	平成 27 年 1 月 17 日～18 日	東京都・品川区立総合体育館	50
	平成 27 年 2 月 14 日～15 日	愛媛県・今治市緑の広場総合体育館	51
研修会	平成 26 年 12 月 21 日	石川県・金沢市北陸電力石川体育館	23
	平成 27 年 1 月 25 日	愛媛県・今治市緑の広場総合体育館	19
	平成 27 年 1 月 31 日	千葉県・千葉市スポーツ科学総合センター	43

	平成 27 年 1 月 31 日	静岡県・浜松市浜北総合体育館	17
	平成 27 年 2 月 1 日	熊本県・玉名市総合体育館	20
	平成 27 年 2 月 7 日	和歌山県・和歌山市立つつじが丘コート	12
	平成 27 年 2 月 11 日	青森県・青森県総合運動公園	33
	平成 27 年 2 月 15 日	広島県・東広島運動公園	18

(3) ソフトテニスハンドブック、ジュニア審判マニュアル等を販売ならびに配布した。

(数値：冊数)

年 度	ソフトテニス ハンドブック	採点票	オーダー票	イエロー カード等	ジュニア審判 マニュアル
平成 26 年度	22,297	2,970	982	22,473	38,860
平成 25 年度	23,644	5,203	1,330	23,825	41,740

(4) 派遣審判員の実施

- ・日本リーグや各ブロック等の各種大会において所属都道府県より審判員を派遣し、審判技術を向上させた。

(5) 審判技術 DVD の活用

- ・日本連盟で作成した DVD を審判技術向上のために積極的に活用した。

(6) 審判認定システムを活用して認定手続きと資格者チェックを行い、大会申込システムとの連動を図った。

9. ソフトテニス用具・用品、施設の公認

(1) 愛好者・競技者が安全で快適にプレーができるよう用具・用品、施設の公認に関し、次の事業を行った。

①以下新規公認を行った。

アメアスポーツジャパン株式会社 シューズ

②更新手続きを承認した。

(P51 (3)維持会費ア.公認メーカー イ.施設業者を参照)

③ラケットの証紙、ネットの証布を発行した。

(数値：枚)

年 度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
ラケット証紙	353,385	434,124	411,988	431,977	460,146	396,825
ネット証布	3,450	2,500	1,124	3,100	3,400	2,800

II. ソフトテニスの競技力向上事業

1. ソフトテニスの競技力向上、医科学研究調査

(1) 競技力向上

- *世界No.1 の競技力の維持を目指して次の事業を実施した。

1) 競技者育成プログラムの推進

- ・一貫指導システムの構築を図り、競技者育成プログラムを Step1 から Step5 の過程を経て実施することにより、競技力を向上させた。①、②はスポーツ振興くじ助成事業、③はスポーツ拠点化助成事業として実施。

①Step-1,2 47 都道府県で強化を実施した。

〈各支部に対して、400,000 円を助成した。〉

②Step-3 (U-14・U-17・U-20/男・女) が 8 ブロックで下記のとおり強化練習会兼選考会を実施した。

ブロック名	期 日	参加選手数	各支部代表	カテゴリー別指導者	ブロック運営委員	データ管理	日本連盟運営委員	日本連盟強化委員	総 計
北海道・東北 (宮城県・仙台市)	9/5～9/7	168	7	28	4	4	1	1	213
関 東 (埼玉県・白子町)	8/29～31	190	8	32	4	4	1	1	240
北信越 (石川県・小松市)	9/5～7	120	5	20	4	4	1	1	155
東 海 (三重県・四日市市)	8/25～27	96	4	16	4	4	1	1	126
近 畿 (和歌山県・和歌山市)	8/29～31	142	6	24	4	4	1	1	182
中 国 (広島県・三次市)	8/29～31	120	5	20	4	4	1	1	155
四 国 (徳島県・徳島市)	8/29～31	96	4	16	4	4	1	1	126
九 州 (熊本県・熊本市)	8/29～31	188	8	32	4	4	1	1	238
合 計		1,120	47	188	32	32	8	8	1,435

日本スポーツ振興センターの助成事業として 41,346,000 円の助成を受けた。

③第 9 回ソフトテニスジュニアジャパンカップ「競技者育成プログラム (Step-4)」を下記のとおり実施した。

期 日：11 月 14 日・17 日 (強化練習会兼選考会)

11 月 15 日～16 日 (第 9 回ジュニアジャパンカップ)

会 場：宮崎市生目の杜運動公園テニスコート

選 手：U-14 (男子：37 名・女子：34 名) 計 71 名

U-17 (男子：36 名・女子：37 名) 計 73 名

U-20 (男子：33 名・女子：42 名) 計 75 名

指 導 者：24 名 (各カテゴリーの男女別に 4 名)

運営委員：32 名

競技委員：54 名

・Step-5 全日本 U-14,U-17,U-20 として強化合宿を実施した。

- ・一貫指導システム確立のための指導理念、指導法ならびに指導内容の検討
- ・競技者育成プログラムを推進するために指導マニュアルを活用して推進した。
- ・「指導教本」「コーチ教本」「指導マニュアル」「DVD 世界に飛ばたけトッププレーヤーへの道」の更なる検討そして改訂について継続して協議し、新指導教本を作成した。

2) 日本代表チーム、ナショナルチーム及びアンダーチームの強化合宿

①日本代表チームおよびナショナルチーム (男子、女子) の強化合宿を次のとおり実施した。

	回数	実施期日	参加者(名)		会 場	
			スタッフ	選手		
代 表	☆①	平成 26 年 5 月 29 日～6 月 3 日	7	12	宮崎県・宮崎市	
	☆②	平成 26 年 7 月 3 日～7 月 8 日	7	13	兵庫県・三木市	
	3	平成 26 年 9 月 12 日～9 月 14 日	1	5	東京都・北区	
	☆④	平成 26 年 8 月 23 日～8 月 25 日	7	16	韓国・仁川市	
	⑤	平成 26 年 9 月 23 日～9 月 28 日	9	10	韓国・仁川市	
	⑥	平成 27 年 3 月 20 日～3 月 25 日	6	12	宮崎県・宮崎市	
ナ シ ョ ナ ル	男 子	☆1	平成 26 年 4 月 17 日～4 月 22 日	3	18	大阪府・大阪市
		2	平成 26 年 2 月 17 日～2 月 20 日	3	11	三重県・四日市市
	女 子	☆1	平成 26 年 4 月 10 日～4 月 15 日	3	16	大阪府・大阪市

(注1) ☆印は（公財）日本オリンピック委員会の補助事業である。（6,930,000 円）

(注2) 上記○印は男女合同合宿、3 は男子合宿

(注3) 上記④⑤は韓国の仁川アジア競技大会会場にて実施

②全日本 U-14. U-17. U-20（男子、女子）強化合宿を次のとおり実施した。

性別	カテゴリー	実施期日	参加者(名)		会 場
			スタッフ	選手	
男 子	☆U-20	平成 27 年 2 月 17 日～2 月 22 日	3	10	三重県・四日市市
	U-17	平成 26 年 4 月 12 日～4 月 17 日	3	20	三重県・四日市市
	(日韓中ジュニア 代表チーム)	平成 26 年 8 月 21 日～8 月 23 日	3	6	岩手県・北上市
	☆U-17	平成 27 年 2 月 17 日～2 月 22 日	3	20	三重県・四日市市
	U-14	平成 26 年 5 月 31 日～6 月 5 日	3	20	三重県・鈴鹿市
	☆U-14	平成 27 年 2 月 17 日～2 月 22 日	3	20	三重県・四日市市
女 子	U-20	平成 26 年 6 月 25 日～6 月 29 日	3	18	三重県・鈴鹿市
	☆U-20	平成 27 年 1 月 31 日～2 月 5 日	3	10	三重県・四日市市
	U-17	平成 26 年 4 月 8 日～4 月 13 日	3	16	和歌山県・和歌山市
	(日韓中ジュニア 代表チーム)	平成 26 年 8 月 21 日～8 月 23 日	3	6	岩手県・北上市
	☆U-17	平成 27 年 1 月 31 日～2 月 5 日	3	20	三重県・四日市市
	U-14	平成 26 年 5 月 31 日～6 月 5 日	3	20	三重県・鈴鹿市
	☆U-14	平成 27 年 1 月 31 日～2 月 5 日	3	19	三重県・四日市市

(注1) ☆印は、日本スポーツ振興センターの助成事業である。（6,000,000 円）

3) 競技力向上のための海外遠征

- ・次の国際大会へ選手を派遣し、競技力の向上を図った。

*第13回チャイナカップ

中国・湖北省において、6月9日（月）～6月14日（土）まで行われた標記大会に、次の

選手団を派遣した。

ア. 選手団

スタッフ	安達和紀 (全日本アンダー14 女子チーム監督)
	浅川陽介 (全日本アンダー17 男子チームコーチ)
	高井志保 (全日本アンダー17 女子チームコーチ)
	兼平智孝 (全日本アンダー17 男子チームトレーナー)
男子選手	増田健人 (和歌山県庁) 村上雄人 (NTT 西日本広島)
	安藤優作 (中京高校) 立木雅也 (中京高校)
	加藤英雄 (松江工業高校) 星野雄慈 (北越高校)
	中村匡起 (都城商業高校) 伊藤 幹 (高岡商業高校)
	大塚勇輝 (和歌山北高校)
女子選手	貝瀬ほのか (和歌山信愛高校) 原野亜衣 (ダンロップ)
	小谷菜津美 (ダンロップ) 米山芽玖 (ダンロップ)
	小路彩佳 (城山観光ホテル) 下田夢奈 (城山観光ホテル)
	百田志穂 (東芝姫路) 松家 梓 (東芝姫路)
	西村美咲 (きのくに信用金庫) 高畑茉侑 (きのくに信用金庫)

イ. 参加国

日本 中国 韓国 中華台北 北朝鮮 モンゴル

ウ. 成績

国別対抗戦 男子：第三位 女子：第三位

男子シングルス 優勝：増田健人

女子シングルス 準優勝：小谷菜津美

女子ダブルス 優勝：小谷菜津美・貝瀬ほのか

準優勝：百田志穂・松家 梓

第三位：西村美咲・高畑茉侑

ミックスダブルス 準優勝：村上雄人・下田夢奈

第三位：百田志穂・中村匡起

*インドネシアオープン国際ソフトテニス大会

インドネシアバリ島にて7月3日(金)～6日(月)まで行われた標記大会に次の選手団を派遣した。

ア. 選手団

監督	武田博子
引率者	花畑允子
男子選手	名取敬恩 (早稲田大学) 安藤圭祐 (早稲田大学)
女子選手	杉浦麻侑子 (早稲田大学) 佐々木聖花 (早稲田大学)
	北浦有華 (ワタキューセイモア) 宮代恵実 (ワタキューセイモア)
	大成 梓 (ワタキューセイモア) 石山千晴 (ワタキューセイモア)

イ. 参加国

日本 インドネシア 韓国 フィリピン

ウ. 成績

女子国別対抗戦 優勝

女子ダブルス 優勝：杉脇麻侑子・佐々木聖花

女子シングルス 優勝：北浦有華

準優勝：杉浦麻侑子
 第三位：大成 梓
 ミックスダブルス 優勝：北浦有華・Kim Hyun Soo
 準優勝：宮代恵実・Lee Hyeon su
 第三位：名取敬恩・佐々木聖花

*第22回日・韓・中ジュニア交流競技会（ソフトテニス）

岩手県北上市において、8月23日（土）～8月28日（木）まで行われた標記大会に、次の選手団を派遣した。

ア. 選手団

団 長	八木橋勉（日本連盟理事・高体連部長）	
男子監督	池田征弘（全日本アンダー17 男子チーム監督）	
男子コーチ	浅川陽介（全日本アンダー17 男子チームコーチ）	
男子トレーナー	兼平智孝（全日本アンダー17 男子チームトレーナー）	
女子監督	岡村勝幸（全日本アンダー17 女子チーム監督）	
女子トレーナー	佐藤美穂（全日本アンダー17 女子チームトレーナー）	
男子選手	星野慎平（高田商業高校）	上松俊貴（岡山理科大学附属高校）
	船水颯人（東北高校）	安藤優作（中京高校）
	内本隆文（上宮高校）	丸山海斗（上宮高校）
女子選手	尾上胡桃（鈴峯女子高校）	西岡真里華（三重高校）
	天満久留実（中村学園女子高校）	藤木陽奈（昇陽高校）
	泉谷朋香（昇陽高校）	田辺恵理（北越高校）

イ. 参加チーム 日本、韓国、中国、開催県(岩手県)

ウ. 成績 男子：優勝 女子：優勝

*コリアカップ

韓国・仁川市において8月26日（火）～8月28日（木）まで行われた標記大会に、次の選手団を派遣した。この大会派遣は（公財）日本オリンピック委員会の補助事業である。（補助金額は強化合宿を含む）

ア. 選手団

男子監督	斉藤広宣（男子ナショナルチーム監督）	
男子コーチ	中堀成生（男子ナショナルチームコーチ）	
男子トレーナー	川上晃司（男子ナショナルチームトレーナー）	
女子監督	田中 弘（女子ナショナルチーム監督）	
女子コーチ	高川経生（女子ナショナルチームコーチ）	
女子トレーナー	吉川友巳奈（女子ナショナルチームトレーナー）	
役員	工藤敏巳（宮城学院女子大学）	
男子選手	篠原秀典（日体桜友会）	小林幸司（ミズノ）
	長江光一（NTT 西日本広島）	中本圭哉（NTT 西日本広島）
	桂 拓也（和歌山県庁）	村上雄人（NTT 西日本広島）

	船水雄太（早稲田大学）	鈴木琢己（中央大学）
女子選手	森田奈緒（ヨネックス）	山下ひかる（ヨネックス）
	森原可奈（東芝姫路）	大庭彩加（NTT 西日本広島）
	横山温香（ナガセケンコー）	阿部悠梨（ナガセケンコー）
	平久保安純（早稲田大学）	
イ. 参加国	日本、韓国、中華台北、中国、タイ、インド、ラオス、フィリピン、インドネシア、ベトナム	
ウ. 成績	男子ダブルス	優勝 村上雄人・長江光一 第三位 桂拓也・中本圭哉
	女子ダブルス	優勝 横山温香・阿部悠梨 第三位 小林奈央・森原可奈 平久保安純・大庭彩加
	男子シングルス	優勝 船水雄太
	女子シングルス	第三位 平久保安純

*第4回ワタキューカップ国際ソフトテニス

アメリカ合衆国サンフランシスコにおいて9月15日（火）～18日（金）まで行われた標記大会に、次の選手団を派遣した。

ア. 選手団

監督	古賀俊彦	
男子選手	増田健人（和歌山県庁）	柴田章平（同志社クラブ）
女子選手	水間奈津紀（NTT 西日本広島）	榎本有花（NTT 西日本広島）
	片山 冴（ワタキューセイモア）	宮代恵実（ワタキューセイモア）
	大成 梓（ワタキューセイモア）	佐藤千浪（ワタキューセイモア）

イ. 参加国 日本 アメリカ 韓国 インド タイ ハンガリー チェコ
ポーランド

ウ. 成績	男子ダブルス	準優勝：増田健人・柴田章平
	女子ダブルス	優勝：水間奈津紀・榎本有花
	男子シングルス	優勝：増田健人
	女子シングルス	優勝：水間奈津紀

*第17回アジア競技大会

韓国・仁川市において9月29日（月）～10月4日（土）まで行われた標記大会に、次の選手団を派遣した。

ア. 選手団

団 長	神崎公宏（日本連盟理事・強化委員長）
男子監督	斉藤広宣（男子ナショナルチーム監督）
男子コーチ	中堀成生（男子ナショナルチームコーチ）
男子トレーナー	川上晃司（男子ナショナルチームトレーナー）
女子監督	田中 弘（女子ナショナルチーム監督）

女子コーチ	高川経生 (女子ナショナルチームコーチ)
女子トレーナー	吉川友巳奈 (女子ナショナルチームトレーナー)
役員	工藤敏巳 (医科学部会委員) 山本裕二 (医科学部会委員)
男子選手	篠原秀典 (日体桜友会) 小林幸司 (ミズノ) 長江光一 (NTT 西日本広島) 中本圭哉 (NTT 西日本広島) 桂 拓也 (和歌山県庁)
女子選手	森田奈緒 (ヨネックス) 山下ひかる (ヨネックス) 森原可奈 (東芝姫路) 大庭彩加 (NTT 西日本広島) 小林奈央 (早稲田大学)
イ. 参加国	日本 カンボジア 中国 インドネシア 韓国 ラオス モンゴル ネパール フィリピン タイ 中華台北 ベトナム タジキスタン
ウ. 成績	男子国別対抗 準優勝 女子国別対抗 準優勝 女子ダブルス 第三位 森田奈緒・山下ひかる

*第2回世界ジュニア選手権大会

インド・アーメダバード市にて11月19日(木)～11月24日(月)まで行われた標記大会に、次の選手団を派遣した。

ア. 選手団

団長	野際照章 (日本連盟理事)
役員	川上晃司 (日本連盟医科学部会員) 松井愛美 (日本連盟国際委員)
強化スタッフ	中津川澄男 (全日本アンダー20 男子チーム監督) 橋本康徳 (全日本アンダー14 男子チームコーチ) 沼崎優子 (全日本アンダー20 女子チームコーチ) 岡村勝幸 (全日本アンダー17 女子チーム監督) 安達和紀 (全日本アンダー14 女子チーム監督) 高川亜紀 (全日本アンダー20 チーム女子トレーナー) 中野道治 (全日本アンダー14 チーム男子トレーナー)
男子選手	船水雄太 (早稲田大学) 九島一馬 (早稲田大学) 丸中大明 (中央大学) 鈴木琢己 (中央大学) 船水颯人 (東北高校) 星野慎平 (高田商業高校) 内本隆文 (上宮高校) 上松俊貴 (岡山理大付属中学校) 上岡俊介 (上宮中学校) 広岡 宙 (上宮中学校) 山根稔平 (清明学園中学校) 北本達己 (寺井中学校)
女子選手	横山温香 (ナガセケンコー) 平久保安純 (早稲田大学) 原野亜衣 (ダンロップ) 佐々木聖花 (早稲田大学) 尾上胡桃 (鈴峯女子高校) 若田実友子 (東芝姫路) 泉谷朋香 (昇陽高校) 中川瑞貴 (ナガセケンコー)

	林田リコ (広島中学校)	笠井菜々子 (鈴峯女子中学校)
	久保晴華 (大池中学校)	中別府瑞希 (大津中学校)
イ. 参加国	日本 インド 中華台北 韓国 中国 フィリピン ネパール	
	モンゴル タイ インドネシア ハンガリー	
ウ. 成績	男子アンダー21	
	ダブルス	優勝 船水雄太・九島一馬 準優勝 丸中大明・鈴木琢己
	シングルス	優勝 船水雄太 準優勝 九島一馬
	男子アンダー18	
	ダブルス	優勝 船水颯人・上松俊貴 準優勝 内本隆文・星野慎平
	シングルス	優勝 船水颯人
	男子アンダー15	
	ダブルス	優勝 上岡俊介・広岡宙
	シングルス	優勝 山根稔平 第三位 北本達己
	女子アンダー21	
	ダブルス	優勝 横山温香・佐々木聖花 第三位 原野亜衣・平久保安純
	シングルス	準優勝 原野亜衣 第三位 平久保安純 横山温香
	女子アンダー18	
	ダブルス	優勝 若田実友子・泉谷朋香 準優勝 中川瑞貴・尾上胡桃
	シングルス	優勝 中川瑞貴
	女子アンダー15	
	ダブルス	優勝 林田リコ・久保晴華 準優勝 笠井菜々子・中別府瑞希
	シングルス	優勝 林田リコ 準優勝 久保晴華 第三位 中別府瑞希 第三位 笠井菜々子

*第11回中山杯国際大会

中華台北の台中市にて11月28日(金)～11月30日(日)まで行われた標記大会に、次の選手団を派遣した。

ア. 選手団

強化スタッフ 高川経生 (女子ナショナルチームコーチ)

男子選手	船水雄太（早稲田大学）	上松俊貴（岡山理科大学附属高校）
女子選手	平久保安純（早稲田大学）	尾上胡桃（鈴峯女子高校）
イ. 参加国	日本 中華台北 韓国 モンゴル フィリピン	
ウ. 成績	男子ダブルス	第三位 船水雄太・上松俊貴
	女子ダブルス	準優勝 平久保安純・尾上胡桃
	男子シングルス	第三位 上松俊貴
	女子シングルス	準優勝 尾上胡桃
	ミックスダブルス	優勝 船水雄太・尾上胡桃
		準優勝 平久保安純・上松俊貴

4) 強化スタッフの各種大会視察

・強化スタッフ・強化委員を次のとおり各種大会に派遣した。

大会名	派遣者
アジア競技大会日本代表予選会	斉藤広宣 中堀成生 田中弘 高川経生 小野寺剛 中津川澄男
全日本シングルス選手権大会	斉藤広宣 中堀成生 田中弘 高川経生
ハイスクールジャパンカップ	岡村勝幸 浅川陽介
全日本小学生選手権大会	橋本康徳
全国中学校大会	篠邊保 橋本康徳 安達和紀 鈴木明子
JOC ジュニアオリンピックカップ大会/ 全日本ジュニア選手権大会	池田征弘 高井志保 安達和紀
全日本選手権大会	斉藤広宣 田中弘 高川経生 小野寺剛 小峯秋二 浅川陽介 安達和紀
世界選手権大会日本代表予選会	斉藤広宣 田中弘 高川経生 中津川澄男 小峯秋二 高井志保
全日本高等学校選抜大会	池田征弘
都道府県対抗全日本中学生大会	岡村勝幸 安達和紀

(2) 医科学研究調査

①医科学スタッフによるサポート及びトレーナーズテントの設営を実施した。

- ・シングルの強化対策を実施した。
- ・陣形に応じた対応策を研究した。
- ・国内大会での撮影及び映像分析を行い、強化合宿において指導した。
- ・国内大会でトレーナーズテントを設営した。
- ・強化合宿時にメディカルチェックを実施し、選手の健康管理と指導を行った。
- ・強化選手へのメンタルトレーニングを行った。
- ・栄養調査を実施し、その分析結果をもとに指導した。
- ・国際大会派遣に帯同し、情報収集・分析・フィードバックを行った。

②各種フィットネステストデータを分析し、競技力向上に役立てた。

③医科学研究報告書を作成・発行し、指導現場に役立てた。

(3) アンチ・ドーピング

①アンチ・ドーピングに関する教育・啓発活動

- ・(公財)日本アンチ・ドーピング機構と連携して、ホームページや大会要項等への情報掲載や強化合宿での指導等、ドーピング防止の普及啓発活動を実施して、スポーツの公平性を競技者に理解させ健全な精神の育成を図った。

②国内大会におけるドーピング検査の実施

- ・アジア競技大会日本代表選手予選会、全日本シングルス選手権大会、全日本選手権大会、世界選手権大会日本代表予選会、全日本インドア選手権大会、アジアカップひろしま国際大会で実施し、日本スポーツ振興センターより 5,275,000 円の助成を受けた。

③国際連盟およびアジア連盟と連携してのアンチ・ドーピング活動の推進

- ・韓国の仁川市で開催されたアジア競技大会の機会に参加各国の監督を集め、アンチ・ドーピングについての説明を行い、周知徹底を図った。

④国際ソフトテニス連盟アンチ・ドーピング規程の改訂

- ・2015年1月1日からの世界アンチ・ドーピング規程の改正に伴う、国際ソフトテニス連盟アンチ・ドーピング規程の改訂を、日本ソフトテニス連盟が中心となって行った。
- ・世界アンチ・ドーピング規程の改正に伴う JADA のアンチ・ドーピング活動方針 (20 才未満の競技者についての親権者同意書の取得) に沿った形での取扱を開始した。

2. ソフトテニスの指導者育成

(1) 指導者養成

①指導者養成事業の推進

- ・指導者養成講習会を次のとおり実施した。

ア. 指導員養成講習会専門科目開催事業 8 会場

実施都道府県

(埼玉県、神奈川県、石川県、三重県、滋賀県、岡山県、広島県、山口県)

イ. スポーツ専門学校 1 会場

(履正社医療スポーツ専門学校)

- ・指導者養成講習会(各都道府県連盟)を「公認スポーツ指導者養成マニュアル」を活用して積極的に実施し、公認スポーツ指導者の拡大を図り、地域の普及活動を充実させた。
- ・公認スポーツ指導者の活用方法の検討を行った。
- ・中・高等学校指導者育成のための方策を検討した。
- ・平成 23 年度より検討を始めた新指導教本の改訂作業を進め、日本連盟創立 90 周年を迎える平成 26 年度に新しい DVD 付指導教本、「最新版ソフトテニス指導教本」を発行した。指導委員会と強化委員会が中心となって取り組んだ。
- ・シングルス練習用マニュアル(DVD 版)の活用を図った。

②全国小学生・中学生・高校生の指導者の合同研修会を実施した。

- ・日程：平成 27 年 2 月 7 日・8 日
- ・場所：大阪アカデミア

- ・参加人数： 役員 26名、指導者 137名、合計 163名
- ・研修内容
 - ア. 小学生、中学生、高校生へのソフトテニス活動における課題の改善について検討した。
 - イ. 競技者育成プログラムの現状を把握し、さらなる推進に向けて協議を行った。
 - ウ. シングルの競技力向上及び普及促進に関する対策を検討した。
 - エ. スポーツ活動を通して環境保全ならびに青少年の健全育成を推進した。
 - カ. スポーツ界における暴力の根絶について指導者としてあるべき姿について議論した。
 - キ. 暴力行為の根絶徹底のため、指導基本規程の制定および通報窓口と指導基本規程違反の処理機関の設置について周知した。
 - ク. いかに小学生・中学生・高校生の生徒の競技力を向上させていくか検討・協議を行った。
- ・日本スポーツ振興センターより 1,176,000 円の助成を受けた。

③公認スポーツ指導者講師競技別全国研修会を実施した。

- ・日程： 平成 27 年 2 月 14 日・15 日
- ・場所： 名古屋市 邦和スポーツランド
- ・参加人数： 25 名
- ・研修内容

競技別指導者の要請にあたり、全国どこで講習を受けても同一（内容・レベル）の講習が受けられるように、また、全国各地の指導者が一貫指導システムを理解し、中央と地域のネットワークを構築するために必要となる競技別インストラクター（講師）となり得る人を対象とした研修会を実施した。

④指導者バンク（日本連盟）の活用推進

競技者育成プログラム及び指導者養成推進等のため日本連盟として指導者バンクを活用した。

- ・日本連盟指導者バンク登録指導者の活用
 - Step-5 におけるナショナルチームや全日本アンダーチームの監督、コーチとしての活動。
 - Step-4 における各カテゴリーの指導者としての活動。
 - Step-3 における支部代表指導者または日本連盟指導者としての活動。

⑤指導者バンク（地域）の活用推進

- ・積極的に指導者バンク（地域）を活用して、競技者育成プログラム（Step1, 2）の推進及び中学、高校の指導者不足を解消する等、普及を担う指導者の確保に努力した。
- ・ジュニア層指導者の資格取得を促進した。（指導員・審判・技術等級）

Ⅲ. ソフトテニスの国際振興事業

1. ソフトテニスの国際振興

(1) 国際普及活動の推進

①国際組織（ISTF, ASTF）内での指導的立場に基づく国際性の向上

- ・トルコ（アンタルヤ）で開催されたスポーツアコードの総会に 4 月 7 日から 4 月 13 日まで丹崎健一国際委員長が参加し、総会前に開催された各種研修会等を通じてソフトテニスのアピールと他競技団体役員との交流を図った。
- ・フランス（パリ）で開催された世界アンチ・ドーピング会議（WADA）TUE シンプジウムに 10 月 22 日から 10 月 26 日まで藤島淑子アンチ・ドーピング委員会委員が参加し、総会におけ

るアンチ・ドーピング規程改訂内容を確認し、各種研修会等を通じてソフトテニスのアピールと他競技団体役員との交流を図った。

②普及対象国への指導者、選手の派遣および普及対象の選手、指導者の日本での研修受入れ

- ・3月23日から3月29日まで第5回タイオープン国際大会に神奈川県大磯ジュニアソフトテニスクラブの引率者5名と選手5名が参加した。

③2020年東京オリンピックに向けた取組

- ・オリンピック非種目であるソフトテニスが、東京オリンピックにどの様にかかわれるか、又各種イベントへの参加が可能となるかについて、JOC国際部長と協議・指導を受けた。
- ・文化活動等に参加するための情報収集と準備のため、日本連盟と東京連盟による東京オリンピック対策プロジェクトを設置した。

④用具の提供、流通の促進

- ・用具・用品の支援

ボール=760打、ラケット=360本、ガット=120張

《送付先》フィリピン、インド、コリアカップ、アジア競技大会、ワタキューカップ大会時普及国に対しラケット・ボールを支援した。

⑤普及指導用諸教材の整理・追加作成及び、普及活動への活用

- ・紹介用プレゼンテーションDVD、紹介用パンフレットを活用した。
- ・技術指導DVD（基礎技術、応用技術、練習方法、競技、審判各編）、解説書等を活用した。
- ・諸規定集（ルールブック、審判DVD等）を活用した。

⑥国際普及親善活動に結びつく支部等の活動に対しての「国際親善大会補助」の助成

北海道連盟、神奈川県連盟、福井県連盟、静岡県連盟、京都府連盟、大阪府連盟、広島県連盟、山口県連盟、香川県連盟、福岡県連盟、近畿連盟、日本学連、日本シニア協議会

⑦その他普及活動

- ・4月28日と4月29日に開催された九州オープン大会に笠井達夫専務理事とベ ジュンヒョン事務局職員が訪問し韓国連盟ユン会長、役員と国際関係の打合せを行った。
- ・7月13日から7月15日に韓国連盟の金事務局長が来日し、国際関係の打合せを行った。
- ・8月25日にマカオ連盟の亀山氏が来日に国際関係の打合せを行った。
- ・1月10日と1月11日に広州市役員が来日し、中国広州市での今後のソフトテニス促進の打合せを行った。

(2) 国際指導体制、審判体制の充実

①国際指導員制度（ASTF）と国際審判員制度(ASTF)の推進

- ・仁川でのアジア競技大会において、各国からの派遣審判員を加え審判技術のレベルアップを図り、新たにインドとフィリピンの国際審判員が認定された。

(3) 国際大会の開催促進

*国際競技大会の参加種目への招致活動及び大会運営を支援した。

①第17回アジア競技大会（2014年仁川）の運営を支援した。

②第2回世界ジュニア選手権大会がインド開催に至るまでの打ち合わせ、準備を行うとともに開催運営を支援した。

③第15回世界選手権大会（2015年インド予定）の準備を行った。

④第18回アジア競技大会（2018年）はインドネシアに変更となったことを受け、インドネシアソ

フトテニス連盟会長と打ち合わせを行った。(仁川アジア大会時)

- *6月12日に笠井達夫専務理事が関西ワールドマスターズゲームス2021事務局を訪問、ソフトテニス競技の実施についての依頼・打合せを行った。
- *6月22日と6月23日に韓国連盟(ユン会長)が来日し、国際振興とアジア競技大会について打合せを行った。
- *8月26日から8月28日に韓国で開催されたコリアカップへ笠井達夫専務理事とベ ジュンヒョン事務局職員が訪問し今後の国際大会などの打合せを行った。
- *9月14日から9月19日にアメリカ(サンフランシスコ)で開催されたワタキューカップへ笠井達夫専務理事と丹崎健一国際委員長が訪問し今後の国際大会などの打合せを行った。また選手4名を大会に派遣した。
- *11月14日にタイ連盟のカムトーン会長他役員が来日し、世界選手権大会等について打合せを行った。
- *1月21日から1月24日に笠井達夫専務理事と丹崎健一国際委員長が国際大会開催や国際連盟等について打合せのためフィリピンを訪問した。
- *3月3日から3月5日に西村信寛副会長と笠井達夫専務理事、丹崎健一国際委員長、ベ ジュンヒョン事務局職員が国際大会開催などの打合せのため韓国を訪問した。
- *3月7日から3月9日まで笠井達夫専務理事と丹崎健一国際委員長、赤須由佳国際委員が国際大会開催などの打合せのため台湾を訪問した。
- *3月14日と3月15日に広島県で開催されたアジアカップひろしま大会に表 孟宏会長、西村信寛副会長、笠井達夫専務理事、丹崎健一国際委員長、玉木 進理事、ベ ジュンヒョン事務局職員が訪問し、ユン韓国連盟会長他役員、趙中華台北連盟会長他役員と、3国において世界選手権大会や国際振興について打合せを行った。

(4) 国際組織(ISTF、ASTF)への活動

- ①2014年アジア競技大会(韓国・仁川市)の運営を支援した。
- ②各国の協力体制、財政基盤の確立、組織運営について検討した。
- ③アンチ・ドーピング活動について積極的に推進した。
- ④英語版ウェブサイト(ASTF及びISTF)の構築による国際情報発信を推進した。

(5) アンチ・ドーピング活動

①国際連盟およびアジア連盟と連携してのアンチ・ドーピング活動の推進

- ・韓国の仁川市で開催されたアジア競技大会の機会に参加各国の監督を集め、アンチ・ドーピングについての説明を行い、周知徹底を図った。
- ・2015年より世界アンチ・ドーピング機構(WADA)の規程改正に伴う、ISTFのアンチ・ドーピング規程改訂をWADA、スポーツアコード、JADAの指導を受け、日本ソフトテニス連盟が中心となって行った。
- ・ASTFホームページにISTFホームページをリンクさせ、アンチ・ドーピング情報を掲載した。
- ・アジア大会においてドーピング違反が発覚したカンボジアの女子選手の聴聞委員会を日本ソフトテニス連盟の事務所で開催し、処分の検討、該当選手の聴聞を実施し、ISTFとしての処分決定を行い、通知および周知を実施した。
- ・アジアカップひろしま大会時にISTFとして、10検体の競技内検査を実施した。

②上記に係る打合せ等

- ・1月28日から1月31日まで韓国のアンチ・ドーピングパネルメンバーのキム氏が来日し、ア

- ンチ・ドーピングについて指導を受け、今後の活動、違反者への対応等の検討を行った。
- ・3月21日～3月23日に韓国のアンチ・ドーピングパネルメンバーのキム氏が来日し、山下りえこ聴聞委員会委員長他メンバーと聴聞委員会を開催した。

〔各事業を推進するための組織と財政の強化〕

I. 組織と財政の強化

1. 組織と財政の強化の推進

公益財団法人としての高い社会的信用を維持し公益目的事業を行うために、組織体制の強化と財政運営に取り組んだ。

2. 環境と教育への取り組み

ソフトテニスを通じて環境と教育に取り組んだ。ソフトテニスを通じて環境保全を図っていくとともに、自己責任及びフェアプレイの精神を身につけ、マナーを重んじる教育を推進し、青少年の健全育成を図った。

- ①大会や強化事業を実施する際にごみの分別等を行うなど、スポーツ活動を通して環境保全を図り、スポーツをする人たち、見る人たちも平等しく地球人として環境保全を推進するため、物を大切に生活習慣を徹底した。

平成26年度に当連盟が独自に新規作成した「環境宣言『来た時よりも美しく』・フェアプレイ宣言『ありがとう あなたの笑顔とそのマナー』」の横断幕とポスター・プログラム等の掲出と配布を実施し、環境とマナーの向上を図った。

- ・大会会場でのごみの持ち帰り及び分別推進とマイボトルの推進を図った。
- ・スポーツと環境保全シンポジウム等の会議に積極的に参加した。

②スポーツマンとしての倫理教育、青少年の健全育成の推進

- ・スポーツ活動を通して青少年の自己責任やフェアプレイの精神などを身につけると共に、仲間との交流を通じて、コミュニケーション能力の育成や他人に対する思いやりなど、豊かな人間性を育てる青少年の健全育成に取り組むと共にソフトテニスが誰にでも誇れる格調高い競技を目指した。
- ・試合終了後の握手の励行を行った。
- ・「フェアプレイで日本を元気に」フェアプレイ宣言キャンペーン活動を継続推進した。
- ・マナーキッズプロジェクト（NPO）と連動し、ショートテニスを通じて日本の伝統的な礼法を体験させ、＜体・徳・知＞バランスのよい子供を育てる活動を推進した。
- ・マナー倫理教本(仮称)の作成の準備を行った。
- ・全国指導者研修会（小中高の指導者3名が各都道府県から参加して27年2月に実施）において「フェアプレイとマナー、暴力行為の撲滅、愛好者増加対策、競技力向上」等をテーマに研修会を実施した

3. 会員登録制度の推進

平成11年度に制定した会員登録制度も15年を経過した。IT化により実務の効率化と迅速化を図り、平成17年度から小・中学生も有料化、平成20年度からは会員登録料納付システムの導入を図ることにより本制度は定着した。そして、各支部を中心とした多くの関係者のご努力とご協力により順調に会員登録が増加して、財政基盤も強固なものとなってきている。

- ①会員登録制度の定着および充実

- ・制度の周知徹底を図り会員登録を定着させ、さらに推進した。

②会員登録手続きの効率化

- ・会員登録システムの活用を向上し、事務効率化を図った。
- ・会員登録システム担当者引継袋を新たに配布し、登録責任者の交替の際の登録事務引継の徹底と円滑化を図った。
- ・会員登録システムに連動し、審判、技術等級の認定管理を行った。
- ・平成 24 年度より会員登録システムに連動して実施した、日本連盟主催大会申し込みの IT 化に加え、支部大会申込システムを完成させ、平成 27 年度から活用できる様にした。
- ・会員証及び会員報配布の各団体への直接送付を継続し、支部関係者の事務負担の軽減を図った。
- ・会員登録料納付システムの活用による会費および大会参加料等の早期かつ正確な納付による円滑な資金管理を推進した。

③会員報の発行

- ・年 2 回（9 月、2 月）会員報を発行して、会員登録料の使途及び日本連盟の情報を会員に周知した。

④登録状況の把握と改善

- ・支部別及び階層別の団体数と会員数等を把握した。
- ・会員登録有料化からの階層別会員登録推移の検証・分析を実施した。

4. 暴力行為の根絶

暴力行為の根絶のため、平成 25 年 12 月 1 日に制定した指導基本規程に基づき、通報窓口と指導基本規程違反の処理機関として、違反救済申立処理委員会を各支部（各都道府県連盟、日本学連、全国高体連、日本中体連）に、違反 救済審査委員会を日本連盟に平成 26 年 4 月 1 日より設置し、全国で取り組んだ。

5. ソフトテニス創始 130 周年（日本連盟創立 90 周年）記念事業実施

2014 年のソフトテニス創始 130 周年、日本ソフトテニス連盟創立 90 周年記念事業（1924 年創立）として「連盟創立 90 周年記念祝賀会」を平成 26 年 11 月 29 日に開催するとともに、90 周年記念誌を発刊した。併せ、この機に 2020 年東京オリンピックに向けてソフトテニスを広くアピールするための広報活動として、指導教本（DVD BOOK）、映画、漫画の制作を行った。指導教本、漫画は平成 26 年度に発刊し、全国約 1,500 の書店で販売され、映画「案山子とラケット」は平成 27 年 4 月 4 日から全国の映画館で一般公開される。

6. 長期基本計画 2012 の推進

平成 26 年度を長期基本計画 2012(平成 24 年度～28 年度)の中間の年と位置付け、長期基本計画 2012 に基づく課題について進捗状況を把握し、着実に推進した。

第2 庶務事項

1. 評議員会に関する事項

(1) 定時評議員会

ア. 期 日 平成26年6月15日(日) 正午 開会

イ. 会 場 アワーズイン阪急 ツイン館4階「第1・第2」会議室

ウ. 決議事項

- ①平成25年度事業報告書(案)および決算報告書(案)について
- ②ユニフォーム等の着用基準について
- ③役員改選について
- ④評議員の選任について

(2) 臨時評議員会

ア. 期 日 平成26年11月30日(日) 午前9時30分 開会

イ. 会 場 アワーズイン阪急 ツイン館 4階「第1・第2」会議室

ウ. 決議事項

- ①平成26年度第1次補正予算書(案)について
- ②大会要項の改訂について
- ③平成27年度事業計画書(案)について
- ④平成27年度収支予算書(案)について
- ⑤平成27年度評議員会日程(案)について

2. 理事会に関する事項

(1) 第1回理事会

ア. 期 日 平成26年5月22日(木) 正午 開会

イ. 会 場 (公財)日本ソフトテニス連盟会議室

ウ. 議決事項

- ①平成25年度事業報告書(案)および決算報告書(案)について
- ②ユニフォーム基準の改訂について
- ③用具・用品の公認申請について
- ④選考委員会開催および役員の改選について

(2) 第2回理事会

ア. 期 日 平成26年6月14日(土) 正午 開会

イ. 会 場 (公財)日本ソフトテニス連盟会議室

ウ. 議決事項

- ①平成26年度定時評議員会提案事項の確認について
- ②用具・用品の公認申請について

(3) 第3回理事会

ア. 期 日 平成26年6月15日(日) 15時40分 開会

イ. 会 場 アワーズイン阪急 ツイン館 4階会議室

ウ. 議決事項

- ①会長、副会長、専務理事および常務理事の選定について
- ②顧問、参与の推薦について

(4) 第4回理事会

ア. 期 日 平成26年7月12日(土) 正午 開会

イ. 会 場 (公財) 日本ソフトテニス連盟会議室

ウ. 議決事項

- ①専門委員会編成について
 - (1)委員長、部会長について
 - (2)委員について
- ②規程および規則の改訂について

(5) 第5回理事会

ア. 期 日 平成26年11月3日(月 祝) 正午 開会

イ. 会 場 (公財) 日本ソフトテニス連盟会議室

ウ. 議決事項

- ①平成26年度第1次補正予算(案)について
- ②平成27年度事業計画書(案)について
 - *大会要項の改訂(案)
 - *大会日程(案)
- ③平成27年度収支予算書(案)について
- ④国際大会入賞者表彰基準の改訂について
- ⑤用具・用品の公認申請について

エ. 審議事項

- ①平成26年度表彰者および第64回日本スポーツ賞(読売新聞)について
- ②平成27年度理事会および評議員会日程(案)について

(5) 第6回理事会

ア. 期 日 平成26年11月29日(土) 午前11時 開会

イ. 会 場 (公財) 日本ソフトテニス連盟会議室

ウ. 議決事項

- ①新規公認事業者申請について
- ②用具・用品の公認申請について
- ③大会要項の改訂について
- ④「ランキング選手表彰基準」「優秀監督および優秀選手表彰基準」の改訂について
- ⑤平成26年度臨時評議員会提案事項の確認について

エ. 審議事項

- ①スリクソンボールについて

②ダンロップのロゴ変更について

(6) 臨時理事会

ア. 期 日 平成 26 年 11 月 30 日 (日) 14 時 15 分 開会

イ. 会 場 アワーズイン阪急 ツイン館 4 階「第 1・第 2」会議室

ウ. 議決事項

①平成 27 年日本代表、ナショナルチームおよび Under20,17,14 全日本チームについて

②平成 27,28 年日本代表、ナショナルチームおよび Under20,17,14 の監督・コーチ・トレーナー
について

3. 業務執行理事会議に関する事項

(1) 第 1 回業務執行理事会議

ア. 期 日 平成 26 年 5 月 21 日 (水) 正午 開会

イ. 会 場 (公財) 日本ソフトテニス連盟会議室

ウ. 議 題

①業務執行状況報告

②平成 26 年第 1 回理事会、第 2 回理事会、定時評議員会に向けて

(2) 第 2 回業務執行理事会議

ア. 期 日 平成 26 年 7 月 11 日 (金) 14 時 開会

イ. 会 場 (公財) 日本ソフトテニス連盟会議室

ウ. 議 題

①業務執行状況報告

②規程及び規則の改訂について

③専門委員会編成について

(3) 第 3 回業務執行理事会議

ア. 期 日 平成 26 年 9 月 23 日 (火 祝日) 15 時 30 分 開会

イ. 会 場 (公財) 日本ソフトテニス連盟会議室

ウ. 議 題

①業務執行状況報告

②事務局体制等

(4) 第 4 回業務執行理事会議

ア. 期 日 平成 27 年 3 月 11 日 (水) 正午 開会

イ. 会 場 (公財) 日本ソフトテニス連盟会議室

ウ. 議 題

①業務執行状況報告

②国際振興について

③東京オリンピック準備プロジェクト

④事務局体制等

4. 役員選考委員会に関する事項

ア. 期 日 平成 26 年 5 月 31 日 (土) 15 時 開会

イ. 会 場 (公財) 日本ソフトテニス連盟会議室

ウ. 議決事項

①地区等選出理事候補の定時評議員会への推薦の承認

②学識経験理事候補の定時評議員会への推薦の承認

③監事候補の定時評議員会への推薦の承認

5. 専門委員会等に関する事項

(1) 各専門委員会等諸会議が、次のとおり開催された。

月	日	専門委員会 (部会) 名	会 場
4	5	90 周年記念誌部会	日本連盟会議室
	11	機関誌編集部会	日本連盟会議室
	11	プログラム編成部会	東京都連盟事務局
	19	環境教育プロジェクト委員会	日本連盟会議室
	20	プログラム編成部会	日本連盟会議室
	27	強化委員会	韃テニスセンター
5	10	90 周年記念誌部会	日本連盟会議室
	20	競技関係会議	日本連盟会議室
	25	機関誌編集部会	日本連盟会議室
	31	90 周年式典部会	日本連盟会議室
6	16	90 周年記念誌部会	日本連盟会議室
	22	プログラム編成部会	日本連盟会議室
	25	機関誌編集部会	日本連盟会議室
7	5	90 周年記念誌部会	日本連盟会議室
	13	90 周年記念誌部会	日本連盟会議室
	14	90 周年記念誌部会	日本連盟会議室
	21	プログラム編成部会	日本連盟会議室
	28	機関誌編集部会	日本連盟会議室
8	2	90 周年特別委員会	日本連盟会議室
	3	90 周年特別委員会	日本連盟会議室
	10	プログラム編成部会	日本連盟会議室
	11	プログラム編成部会	日本連盟会議室
	16	審判委員会	日本連盟会議室
	17	環境教育プロジェクト委員会	日本連盟会議室
	28	機関誌編集部会	日本連盟会議室

	28	広報委員会	日本連盟会議室
	29	90周年特別委員会	日本連盟会議室
9	4	プログラム編成部会	日本連盟会議室
	20	総務委員会・会員登録制度部会	日本連盟会議室
	20	90周年特別委員会	日本連盟会議室
	20・21	審判委員会	熊谷さくら運動公園 管理会議室
	23	国際委員会・国際振興プロジェクト	日本連盟会議室
	24	プログラム編成部会	日本連盟会議室
	26	機関誌編集部会	日本連盟会議室
	28	生涯スポーツ委員会	日本連盟会議室
10	4	プログラム編成部会	サニーテニスコート
	5	環境教育プロジェクト委員会	日本連盟会議室
	11	プログラム編成部会	日本連盟会議室
	21	90周年特別委員会	日本連盟会議室
	28	90周年特別委員会	日本連盟会議室
	30	機関誌編集部会	日本連盟会議室
11	2	90周年合同委員会	日本連盟会議室
	8	強化委員会	宇部マテ“フレッセラ”テニスコート
	9	強化委員会	宇部マテ“フレッセラ”テニスコート
	17	90周年特別委員会	日本連盟会議室
	24	環境教育プロジェクト委員会	日本連盟会議室
	29	90周年特別委員会	日本連盟会議室
12	3	機関誌編集部会	日本連盟会議室
	23	競技委員会	日本連盟会議室
1	3	機関誌編集部会	日本連盟会議室
	25	アンチ・ドーピング委員会	日本連盟会議室
	26	機関誌編集部会	日本連盟会議室
	26	広報委員会	日本連盟会議室
2	1	マネジメント部会	大阪体育館
	8	強化スタッフ会議	大阪アカデミア
	21	プログラム編成部会	日本連盟会議室
	22	審判委員会	日本連盟会議室
	23	IT部会	日本連盟会議室
	25	機関誌編集部会	日本連盟会議室

3	14	指導委員会	日本連盟会議室
	14	医科学部会	アワーズイン阪急

(2) 監査等が、次のとおり実施された。

月	日	事業内容	会 場
5	19	公認会計士による会計監査	日本連盟会議室
5	20・21	監事による監査	日本連盟会議室
12	19	公認会計士による期中監査	日本連盟会議室

6. その他会議等に関する事項

(1) 加盟団体会長会議

ア. 期 日 平成26年4月6日(日) 正午 開会

イ. 会 場 岸記念体育会館 5階 504、505 会議室

ウ. 議 題

- ①暴力行為根絶のための指導基本規程の制定および違反救済申立委員会等の各支部での設置について
- ②ソフトテニス創始130周年(日本ソフトテニス連盟創立90周年)式典開催の件
- ③2020年東京オリンピックに向けてのソフトテニスを広くアピールするための諸施策について

(2) 連盟創立90周年記念祝賀会

ア. 期 日 平成26年11月29日(土) 18時 開会

イ. 会 場 グランドプリンスホテル高輪「プリンスルーム」

ウ. 式次第

主催者代表挨拶 公益財団法人 日本ソフトテニス連盟 会長 表 孟宏

来賓ご祝辞 文部科学省 競技スポーツ課 課長 坪田 知広 様

公益財団法人 日本体育協会 理事・事務局長 川島 雄二 様

公益財団法人 日本オリンピック委員会 常務理事 平岡 英介 様

来賓紹介

表彰 特別功労者表彰

支援自治体表彰

支部長表彰

指導者表彰

協賛企業表彰

乾杯

記念事業紹介 指導教本

映画

漫画

7. 役員・事務局職員に関する事項

(1) 平成26年度(4月1日～6月定時評議員会まで)

名誉会長・名誉副会長・理事22名

役 職	氏 名
名誉会長	海 部 俊 樹
名誉副会長	林 敏 弘 26年8月14日逝去

役 職	氏 名	選出母体	役 職	氏 名	選出母体
会 長	表 孟 宏	学識経験者	理 事	木原晴彦	中 国
副 会 長	西村信寛			安藤正美	四 国
副 会 長	小原信幸			吉田博紀	九 州
専務理事	笠井達夫			松谷 茂	全国高体連
常務理事	和歌浦 信雄	北 信 越		林 昭 文	日本中体連
	柳下秋久	会長推薦		丹崎健一	会長推薦
	田中正男			神崎公宏	
理 事	川島 登	北海道・東北		北本英幸	
	星野 博	関 東		野際照章	
	斉藤元三	東 海		大川京子	
	山本 毅	近 畿	井上清一		

(2) 平成26年度(4月1日～6月定時評議員会まで) 監 事 3名

氏 名	支 部	氏 名	支 部	氏 名	支 部
北村和久	三 重	阿部宗一	大 阪	鈴木正彦	群 馬

(3) 平成26年度(4月1日～6月定時評議員会まで) 評議員 50名

運上琢論(北海道)	新保俊彦(青森)	宮田 勤(岩手)
松田孝志(宮城)	加藤育広(秋田)	山田耕司(山形)
小野間幸一(福島)	額賀富雄(茨城)	大久保忠雄(栃木)
佐藤栄一(群馬)	山下晴海(埼玉)	石川雅利(千葉)
山崎隆一(東京)	笠井一栄(神奈川)	角田俊和(山梨)
藤崎俊郎(新潟)	堀内 昭(長野)	高辻則夫(富山)
眞島仁志(石川)	川畑 茂(福井)	落合敏男(静岡)
篠邊 保(愛知)	天野晴夫(三重)	木村芳雄(岐阜)
金井 豊(滋賀)	増木博一(京都)	相賀 勝(大阪)
森田賢二(兵庫)	川西 斎(奈良)	花田一弥(和歌山)
安東健司(鳥取)	森脇孝吉(島根)	竹内英人(岡山)
大前秀樹(広島)	秋枝正文(山口)	岸本正文(徳島)
木下恵司(香川)	越智 朗(愛媛)	横江忠志(高知)
湯田純孝(福岡)	豊福尚弘(佐賀)	馬場信幸(長崎)
岩下敏和(熊本)	白水厚二(大分)	寺園圀順(宮崎)
川畑 城(鹿児島)	仲間正弘(沖縄)	富永 陽(日学連)
木下道夫(高体連)	平野富靖(中体連)	

(4) 平成26年度(4月1日～6月定時評議員会まで) 専門委員会

総務委員会	委員長	和歌浦 信雄(新潟)	副委員長 田中正 男(神奈川)		
	委員	柳下 秋久(東京)	吉田 博紀(熊本)	井上 清一(石川)	川島 登(福島)
		丹崎 健一(東京)	山下 晴海(埼玉)	北 正三(埼玉)	
会員登録制度部会	部会長	和歌浦 信雄(新潟)			
	委員	川島 登(福島)	吉田 博紀(熊本)	林 昭文(中体連)	今井 史郎(東京)
		北 正三(埼玉)	大西 正明(高体連)	富 永 陽(日学連)	運上 琢論(北海道)
IT部会	部会長	北 正三(埼玉)			
	委員	天野 晴夫(三重)	大野 勝敏(東京)	増山 良夫(東京)	

審判委員会	委員長	柳下 秋久(東京)	副委員長 今井 史郎(東京)		
	委員	芥藤 元三(愛知)	木原 晴彦(広島)	北村 和久(三重)	笛岡 宣明(愛知)
		林田 正信(熊本)	石川 雅利(千葉)	蒲原 英敏(広島)	田中 敏雄(広島)
		牧 壯一(愛知)	田村 忠士(広島)	君塚 亮一(神奈川)	荒畑 鈴佳(岐阜)
		上山 親子(大阪)	木下 道夫(高体連)		

競技委員会	委員長	芥藤 元三(愛知)	副委員長 星野 博(東京)		
	委員	柳下 秋久(東京)	安藤 正美(香川)	長岡 敏久(埼玉)	今井 史郎(東京)
		井上 光子(千葉)			
プログラム編成部会	部会長	長岡 敏久(埼玉)			
	委員	星野 博(東京)	増山 良夫(東京)	佐藤 健司(東京)	木谷 順三(千葉)
		小笠原 浩二(東京)	中野 吉広(東京)	山口 眞護(東京)	小俣 三男(埼玉)
		木所 一典(栃木)	高川 恵美子(東京)	藤原 芳子(東京)	織原 真由美(東京)
		井上 光子(千葉)	成島 厚子(東京)		
等級制度部会	部会長	今井 史郎(東京)			
	委員	荒木 稜夫(東京)	安達 和紀(鳥取)	篠邊 保(愛知)	吉田 茂(福島)
		大中和彦(神奈川)			

強化委員会	委員長	神崎 公宏(三重)	副委員長 北本 英幸(石川)		
	委員	野際 照章(京都)	石井 源信(東京)	芥藤 広宣(千葉)	田中 弘(東京)
		中堀 成生(広島)	高川 経生(東京)		
医科学部会	部会長	石井 源信(東京)			
	委員	永井 博典(東京)	山本 裕二(愛知)	水野 哲也(千葉)	工藤 敏巳(宮城)
		出家 正隆(広島)	藤島 淑子(東京)	楠堀 誠司(広島)	井田 博史(東京)
		川上 晃司(兵庫)	守重 昌彦(東京)	見附 祥子(広島)	川野 因(神奈川)
		永野 康治(新潟)	村山 孝之(石川)	福原 和伸(東京)	山田 隆(東京)

指 導 委 員 会	委員長	野 際 照 章(京都)	副委員長 神 崎 公 宏(三重)		
	委 員	北 本 英 幸(石川)	小野寺 剛(東京)	榎 並 紳 吉(東京)	安 達 和 紀(鳥取)
		篠 邊 保(愛知)	井 田 博 史(東京)	小 西 俊 博(香川)	武 田 博 子(広島)
		松 口 康 彦(神奈川)			

生涯スポーツ委員会	委員長	大 川 京 子(千葉)	副委員長 山 本 毅(京都)		
	委 員	吉 田 博 紀(熊本)	本 田 茂 雄 (宮城)	金 岡 昭 房(宮城)	木 下 道 夫(高体連)
		内 田 齋(東京)			
小 学 生 部 会	部会長	金 岡 昭 房(宮城)			
	委 員	石 川 雅 利(千葉)	松 口 康 彦(神奈川)	芝 地 康 幸(兵庫)	廣 島 義 清(北海道)
		國 枝 俊 子(岐阜)	川並久美子(和歌山)	中 村 正 広(福岡)	小 西 俊 博(香川)
		畠 山 洋 二(広島)			
シニア部会	部会長	本 田 茂 雄 (宮城)			
	委 員	山 本 毅(京都)	吉 田 博 紀(熊本)	時 任 宥 幸(東京)	保 倉 謙 治(埼玉)
		山 村 嘉 一(千葉)	原 田 公 夫(鳥取)	横 野 久 美 子(愛知)	

国 際 委 員 会	委員長	丹 崎 健 一(東京)	副委員長 玉 木 進(事務局)		
	委 員	木 原 晴 彦(広島)	山 口 正 紀(広島)	福 崎 穰 司(広島)	蒲 原 英 敏(広島)
		古 賀 俊 彦(京都)	松 井 愛 美(神奈川)	関 川 丈 彦(新潟)	

広 報 委 員 会	委員長	田 中 正 男(神奈川)	副委員長 柳 下 秋 久(東京)		
	委 員	安 藤 正 美(香川)	中 山 俊 介(東京)	萩 原 廣 一(神奈川)	石 川 雅 利(千葉)
		北 正 三(埼玉)	大 野 勝 敏(埼玉)	井 上 光 子(千葉)	
機 関 誌 編 集 部 会	部会長	田 中 正 男(神奈川)			
	委 員	石 川 雅 利(千葉)	鈴 木 学(埼玉)	近 藤 貴 予(東京)	井 上 光 子(千葉)

アンチドーピング委員会	委員長	北 本 英 幸(石川)	副委員長 玉 木 進(事務局)		
	委 員	丹 崎 健 一(東京)	永 井 博 典(東京)	藤 島 淑 子(東京)	川 上 晃 司(兵庫)
		見 附 祥 子(広島)	上 遠 野 久 美(福島)		

《特別委員会》

競技者資格委員会	委員長	表 孟 宏(兵庫)	副委員長 笠 井 達 夫(神奈川)		
	委 員	西 村 信 寛(東京)	小 原 信 幸(岡山)	和歌浦 信雄(新潟)	柳 下 秋 久(東京)
		斉 藤 元 三(愛知)	大 川 京 子(千葉)	田 中 正 男(神奈川)	松 谷 茂(高体連)
		林 昭 文(中体連)			

倫 理 委 員 会	委員長	西 村 信 寛(兵庫)	副委員長 笠 井 達 夫(神奈川)		
	委 員	小 原 信 幸(岡山)	和歌浦 信雄(新潟)	柳 下 秋 久(東京)	斉 藤 元 三(愛知)
		田 中 正 男(神奈川)			

競技者育成プログラム 推進委員会	委員長	笠 井 達 夫(神奈川)	副委員長 神 崎 公 宏(三重)		
	委 員	北 本 英 幸(石川)	吉 田 博 紀(熊本)	木 原 晴 彦(広島)	松 谷 茂(高体連)
		林 昭 文(中体連)	本 田 茂 雄(宮城)	野 際 照 章(京都)	井 上 創(兵庫)
		丹 崎 健 一(東京)	林 研 一(日学連)		
競技者育成部会	部会長	神 崎 公 宏(三重)			
	委 員	斉 藤 広 宣(千葉)	田 中 弘(東京)	小野寺 剛(東京)	小 峯 秋 二(富山)
		池 田 征 弘(佐賀)	岡 村 勝 幸(山梨)	篠 邊 保(愛知)	安 達 和 紀(鳥取)
指導者育成部会	部会長	野 際 照 章(京都)			
	委 員	神 崎 公 宏(三重)	北 本 英 幸(石川)	斉 藤 広 宣(千葉)	田 中 弘(東京)
		川並久美子(和歌山)	伊 東 健(岩手)		
マネジメント部会	部会長	井 上 創(兵庫)			
	委 員	手 嶋 信 彦(岡山)	天 野 晴 夫(三重)	藤 崎 俊 郎(新潟)	増 田 大 吾(神奈川)
		溝 渕 俊 二(和歌山)	西 木 宏(徳島)	岩 下 敏 和(熊本)	千 葉 英 明(宮城)

用具施設検討委員会	委員長	笠 井 達 夫(事務局)	副委員長 齊 藤 元 三(愛知)		
	委 員	柳 下 秋 久(東京)	星 野 博(東京)	玉 木 進(事務局)	

国際振興プロジェクト	委員長	笠 井 達 夫(神奈川)			
	委 員	山 口 正 紀(広島)	橋 本 貞 夫(福島)	田 辺 理(東京)	玉 木 進(事務局)
		佐々木 寿(北海道)	古 賀 俊 彦(京都)		

環 境・教 育 プロジェクト	委員長	井 上 清 一(石川)			
	委 員	斉 藤 元 三(愛知)	神 崎 公 宏(三重)	大 川 京 子(千葉)	川 島 登(福島)
		安 藤 正 美(香川)	松 谷 茂(東京)	林 昭 文(中体連)	野 際 照 章(京都)
		本 田 茂 雄(宮城)	金 岡 昭 房(宮城)	林 研 一(日学連)	

(5) 平成26年度 顧問・参与・事務局職員（4月1日～6月定時評議員会まで）

《顧問》

中屋 卯三郎	倉田 裕司	松田 謙治	齋藤 孝弘 26年8月28日逝去	奥田 忠雄
内田 昌一				

《参与》

重田 衛	長瀬 泰彦	水野 明人	米山 勉	酒井 薫
高松 政男	松田 信穂	林 幸夫	中山 昌作	内藤 享佑
伊野 二彦	和田 祥司 27年1月1日逝去	吉田 敏彦	西田 豊明	本田 茂雄
宮下 恭子	藤原 伸二			

〈事務局職員〉

事務局長	笠井達夫(専務理事) 平成25年4月1日～	職 員	荒木 朋子	平成 3年 5月1日～
	事務局次長		玉 木 進 平成24年7月1日～	竹田 稔
大八木 洋子				平成13年 4月1日～
堀内 大				平成26年 1月14日～
			斐 浚 賢	平成26年 1月14日～

- ※ 顧問弁護士 鈴木 孝雄氏
 ※ 公認会計士 櫻井 資悦氏
 ※ 税理士 松尾 洋二氏

(6) 平成26年度(6月定時評議員会～28年6月定時評議員会まで)

名誉会長・名誉副会長・理事22名

役 職	氏 名
名誉会長	海 部 俊 樹
名誉副会長	林 敏 弘 26年8月14日逝去

役 職	氏 名	選出母体	役 職	氏 名	選出母体
会 長	表 孟 宏	学識経験者	理 事	安 藤 正 美	四 国
副 会 長	西 村 信 寛			白 水 厚 二	九 州
副 会 長	小 原 信 幸			八 木 橋 勉	全国高体連
専務理事	笠 井 達 夫			林 昭 文	日本中体連
常務理事	和歌浦 信雄	北 信 越		丹 崎 健 一	会 長 推 薦
	柳 下 秋 久	会 長 推 薦		神 崎 公 宏	
理 事	川 島 登	北海道・東北		北 本 英 幸	
	石 川 雅 利	関 東		野 際 照 章	
	篠 邊 保	東 海		大 川 京 子	
	川 西 斎	近 畿		林 田 正 信	
	木 原 晴 彦	中 国		山 下 晴 海	
				玉 木 進	

(7) 平成26年度(6月定時評議員会～28年6月定時評議員会まで) 監 事 3名

氏 名	支 部	氏 名	支 部	氏 名	支 部
井 上 清 一	石 川	萬 正 一	秋 田	山 本 毅	京 都

(8) 平成26年度(6月定時評議員会～28年6月定時評議員会まで) 評議員 50名

運上 琢 論 (北海道)	新 保 俊 彦 (青 森)	宮 田 勤 (岩 手)
松 田 孝 志 (宮 城)	加 藤 育 広 (秋 田)	山 田 耕 司 (山 形)
小野間 幸 一 (福 島)	額 賀 富 雄 (茨 城)	大 久 保 忠 雄 (栃 木)
佐 藤 栄 一 (群 馬)	中 村 進 (埼 玉)	堀 越 浩 (千 葉)
佐 藤 健 司 (東 京)	笠 井 一 栄 (神 奈 川)	向 山 淳 (山 梨)
藤 崎 俊 郎 (新 潟)	堀 内 昭 (長 野)	高 辻 則 夫 (富 山)
眞 島 仁 志 (石 川)	川 畑 茂 (福 井)	落 合 敏 男 (静 岡)
澤 田 康 彦 (愛 知)	天 野 晴 夫 (三 重)	木 村 芳 雄 (岐 阜)
金 井 豊 (滋 賀)	増 木 博 一 (京 都)	友 谷 往 弘 (大 阪)
森 田 賢 二 (兵 庫)	西 森 卓 也 (奈 良)	花 田 一 弥 (和 歌 山)
安 東 健 司 (鳥 取)	森 脇 孝 吉 (島 根)	竹 内 英 人 (岡 山)
大 前 秀 樹 (広 島)	秋 枝 正 文 (山 口)	岸 本 正 文 (徳 島)
木 下 恵 司 (香 川)	越 智 朗 (愛 媛)	横 江 忠 志 (高 知)
湯 田 純 孝 (福 岡)	豊 福 尚 弘 (佐 賀)	馬 場 信 幸 (長 崎)
岩 下 敏 和 (熊 本)	福 田 茂 (大 分)	當 瀬 純 一 (宮 崎)
山 口 純 生 (鹿 児 島)	宮 城 正 彦 (沖 縄)	宮 崎 正 巳 (日 学 連)
落 合 護 (高 体 連)	平 野 富 靖 (中 体 連)	

(9) 平成26年度(6月定時評議員会～28年6月定時評議員会まで) 専門委員会

総務委員会	委員長	和歌浦 信雄(新潟)	副委員長 丹崎 健一(東京)		
	委員	柳下 秋久(東京)	川島 登(福島)	白水 厚二(大分)	林 昭文(中体連)
		北 正三(埼玉)			
会員登録制度部会	部会長	和歌浦 信雄(新潟)			
	委員	川島 登(福島)	白水 厚二(大分)	林 昭文(中体連)	北 正三(埼玉)
		運上 琢論(北海道)	落合 護(高体連)		
IT部会	部会長	北 正三(埼玉)			
	委員	天野 晴夫(三重)	大野 勝敏(埼玉)	増山 良夫(東京)	

審判委員会	委員長	林田 正信(熊本)	副委員長 今井 史郎(東京)		
	委員	柳下 秋久(東京)	木原 晴彦(広島)	川西 斎(奈良)	安藤 正美(香川)
		山下 晴海(埼玉)	北村 和久(三重)	笛岡 宣明(愛知)	牧 壮一(愛知)
		田村 忠士(広島)	君塚 亮一(神奈川)	木下 道夫(東京)	上山 親子(大阪)
		荒畑 鈴佳(岐阜)			

競技委員会	委員長	柳下 秋久(東京)	副委員長 安藤 正美(香川)		
	委員	山下 晴海(埼玉)	篠邊 保(愛知)	林田 正信(熊本)	長岡 敏久(埼玉)
		今井 史郎(東京)	井上 光子(千葉)		
プログラム編成部会	部会長	長岡 敏久(埼玉)			
	委員	山下 晴海(埼玉)	増山 良夫(東京)	佐藤 健司(東京)	木谷 順三(千葉)
		小笠原 浩二(東京)	中野 吉広(東京)	山口 眞護(東京)	小俣 三男(埼玉)
		木所 一典(栃木)	高川 恵美子(東京)	藤原 芳子(東京)	織原 真由美(東京)
		井上 光子(千葉)	成島 厚子(東京)		
等級制度部会	部会長	今井 史郎(東京)			
	委員	篠邊 保(愛知)	安達 和紀(鳥取)	吉田 茂(福島)	大中和 彦(神奈川)
		木下 道夫(東京)			

強化委員会	委員長	神崎 公宏(三重)	副委員長 北本 英幸(石川)		
	委員	篠邊 保(愛知)	野際 照章(京都)	石井 源信(東京)	斉藤 広宣(千葉)
		田中 弘(東京)	中堀 成生(広島)	高川 経生(東京)	
医科学部会	部会長	石井 源信(東京)			
	委員	永井 博典(東京)	山本 裕二(愛知)	水野 哲也(千葉)	工藤 敏巳(宮城)
		出家 正隆(広島)	藤島 淑子(東京)	楠堀 誠司(広島)	井田 博史(東京)
		川上 晃司(兵庫)	守重 昌彦(東京)	見附 祥子(広島)	川野 因(神奈川)
		永野 康治(新潟)	村山 孝之(石川)	福原 和伸(東京)	山田 隆(東京)

指 導 委 員 会	委員長	野 際 照 章(京都)	副委員長 北 本 英 幸 (石川)		
	委 員	神 崎 公 宏(三重)	篠 邊 保(愛知)	小野寺 剛(東京)	安 達 和 紀(鳥取)
		小 西 俊 博(香川)	武 田 博 子(京都)	井 田 博 史(東京)	松 口 康 彦(神奈川)
		浅 川 陽 介(東京)			

生涯スポーツ委員会	委員長	大 川 京 子(千葉)	副委員長 石 川 雅 利 (千葉)		
	委 員	川 西 齊(奈良)	白 水 厚 二(大分)	林 昭 文(中体連)	本 田 茂 雄 (宮城)
		金 岡 昭 房(宮城)	落 合 護(高体連)		
小学生部会	部会長	金 岡 昭 房(宮城)			
	委 員	石 川 雅 利(千葉)	松 口 康 彦(神奈川)	芝 地 康 幸(兵庫)	廣 島 義 清(北海道)
		國 枝 俊 子(岐阜)	川 並 久 美 子(和歌山)	中 村 正 広(福岡)	小 西 俊 博(香川)
		畠 山 洋 二(広島)	小 野 道 康(新潟)		
シニア部会	部会長	本 田 茂 雄 (宮城)			
	委 員	川 西 齊(奈良)	白 水 厚 二(大分)	時 任 宥 幸(東京)	保 倉 謙 治(埼玉)
		山 村 嘉 一(千葉)	横 野 久 美 子(愛知)	佐 藤 健 司(東京)	

国 際 委 員 会	委員長	丹 崎 健 一(東京)	副委員長 玉 木 進(東京)		
	委 員	木 原 晴 彦(広島)	山 口 正 紀(広島)	福 崎 穰 司(広島)	蒲 原 英 敏(広島)
		古 賀 俊 彦(京都)	松 井 愛 美(神奈川)	関 川 丈 彦(新潟)	安 達 和 紀(鳥取)
		赤 須 由 佳 (三重)			

広 報 委 員 会	委員長	玉 木 進(東京)	副委員長 山 下 晴 海(埼玉)		
	委 員	柳 下 秋 久(東京)	石 川 雅 利(千葉)	中 山 俊 介(東京)	萩 原 廣 一(神奈川)
		北 正 三(埼玉)	大 野 勝 敏(埼玉)	井 上 光 子(千葉)	
機関誌編集部会	部会長	山 下 晴 海(埼玉)			
	委 員	石 川 雅 利(千葉)	鈴 木 学(埼玉)	近 藤 貴 予(東京)	井 上 光 子(千葉)
		赤 井 宏 司(東京)			

アンチドーピング委員会	委員長	北 本 英 幸(石川)	副委員長 玉 木 進(東京)		
	委 員	丹 崎 健 一(東京)	永 井 博 典(東京)	藤 島 淑 子(東京)	川 上 晃 司(兵庫)
		見 附 祥 子(広島)	上 遠 野 久 美(福島)		

《特別委員会》

競技者資格委員会	委員長	表 孟 宏(兵庫)	副委員長 笠井達夫(神奈川)		
	委員	西村信寛(東京)	小原信幸(岡山)	和歌浦信雄(新潟)	柳下秋久(東京)
		大川京子(千葉)	林昭文(中体連)	八木橋勉(高体連)	

倫理委員会	委員長	西村信寛(東京)	副委員長 笠井達夫(神奈川)		
	委員	小原信幸(岡山)	和歌浦信雄(新潟)	柳下秋久(東京)	

競技者育成プログラム 推進委員会	委員長	笠井達夫(神奈川)	副委員長 山下晴海(埼玉)		
	委員	柳下秋久(東京)	篠邊保(愛知)	木原晴彦(広島)	白水厚二(大分)
		八木橋勉(高体連)	林昭文(中体連)	神崎公宏(三重)	野際照章(京都)
		北本英幸(石川)	丹崎健一(東京)	井上創(兵庫)	林研一(日学連)
競技者育成部会	部会長	神崎公宏(三重)			
	委員	斉藤広宣(千葉)	田中弘(東京)	小野寺剛(東京)	小峯秋二(富山)
		池田征弘(京都)	岡村勝幸(山梨)	篠邊保(愛知)	安達和紀(鳥取)
指導者育成部会	部会長	野際照章(京都)			
	委員	神崎公宏(三重)	北本英幸(石川)	斉藤広宣(千葉)	田中弘(東京)
		川並久美子(和歌山)	伊東健(岩手)		
マネジメント部会	部会長	井上創(兵庫)			
	委員	手嶋信彦(広島)	天野晴夫(三重)	増田大吾(神奈川)	溝渕俊二(和歌山)
		西木宏(徳島)	岩下敏和(熊本)	千葉英明(宮城)	山田浩一(石川)

用具施設検討委員会	委員長	笠井達夫(神奈川)	副委員長 柳下秋久(東京)		
	委員	玉木進(東京)	山下晴海(埼玉)	今井史郎(東京)	

国際振興プロジェクト	委員長	笠井達夫(神奈川)	副委員長 丹崎健一(東京)		
	委員	玉木進(東京)	橋本貞夫(神奈川)	佐々木寿(北海道)	古賀俊彦(京都)

環境・教育 プロジェクト	委員長	川島登(福島)	副委員長 篠邊保(愛知)		
	委員	柳下秋久(東京)	安藤正美(香川)	林田正信(熊本)	大川京子(千葉)
		八木橋勉(高体連)	林昭文(中体連)	金岡昭房(宮城)	林研一(日学連)

東京オリンピック対策 プロジェクト	委員長	笠井達夫(神奈川)	副委員長 佐藤健司(東京)		
	委員	丹崎健一(東京)	玉木進(東京)	内田裕行(東京)	柳澤昌彦(東京)
		横山隆二(東京)			

(10) 平成26年度(6月定時評議員会～28年6月定時評議員会まで)

顧問・参与・事務局職員

《顧問》

中屋 卯三郎	倉田 裕司	松田 謙治	齋藤 孝弘 26年8月28日逝去	奥田 忠雄
内田 昌一	北村 和久			

《参与》

重田 衛	長瀬 泰彦	水野 明人	米山 勉	酒井 薫
高松 政男	松田 信穂	林 幸夫	中山 昌作	内藤 享佑
伊野 二彦	和田 祥司 27年1月1日逝去	吉田 敏彦	西田 豊明	本田 茂雄
宮下 恭子	藤原 伸二	星野 博	齊藤 元三	吉田 博紀

《事務局職員》

事務局長	笠井達夫(専務理事) 平成25年4月1日～	職 員	荒木 朋子	平成 3年 5月1日～
	事務局次長		玉 木 進 平成24年7月1日～	竹田 稔
			大八木 洋子	平成13年 4月1日～
			堀内 大	平成26年 1月14日～
			斐 浚賢	平成26年 1月14日～

- ※ 顧問弁護士 鈴木 孝雄氏
- ※ 公認会計士 櫻井 資悦氏
- ※ 税理士 加藤 貴大氏(税理士法人みなと財務)

8. 会員登録に関する事項

(1) 年度別会員登録人数

(数値：人数)

種別	指導者	一般	小学生	中学生	高校生	高専	大学生	合計
平成 26 年度	9,963	47,230	17,566	289,506	82,964	1,056	7,669	455,954
平成 25 年度	9,268	48,324	17,260	286,326	81,402	1,037	7,610	451,227
平成 24 年度	8,751	49,279	17,174	284,478	82,510	1,005	7,800	450,997
平成 23 年度	7,771	50,221	17,298	284,886	81,730	918	8,076	450,900
平成 22 年度	6,885	51,525	18,083	285,617	83,555	950	8,492	455,107
平成 21 年度	5,482	51,214	17,986	291,640	85,841	846	8,499	461,508
平成 20 年度	3,291	51,436	17,408	279,203	87,243	810	8,288	447,679
平成 19 年度	0	54,239	17,415	269,939	91,165	385	7,543	440,686
平成 18 年度	0	53,787	17,742	240,872	93,199	373	7,567	413,540

(注) 都道府県別会員数は別表 4 (P58) に掲載。平成 20 年度より指導者区分を設置。

9. 分担金に関する事項

(1) 支部分担金

一律 150,000 円 × 50 支部 7,500,000 円

(2) 会員登録料

(単位：円)

種別	指導者	一般	小学生	中学生	高校生	高専	大学生	合計
平成 26 年度	9,963,000	47,230,000	8,783,000	144,753,000	41,482,000	528,000	3,834,500	256,573,500
平成 25 年度	9,268,000	48,324,000	8,630,000	143,163,000	40,701,000	518,500	3,805,000	254,409,500

(3) 維持会費

ア. 公認メーカー

24社：延べ47社（前年度47社）

（単位：円）

用具・用品	金額	公認メーカー
ラケット 9社	900,000	カワサキ・ミズノ・ヨネックス・ゴーセン・ヒロウン ダンロップスポーツ・グローブライド・ティエムシー・ ジャパーナ
ボール 3社	8,280,000	昭和ホールディングス・ナガセケンコー・ダンロップスポーツ
ネット 8社	800,000	鐘屋産業・アシックス・寺西喜商店・ミセキネット・ 昭和ホールディングス・高須賀・ティエヌネット・鶴沢ネット
ストリング 6社	3,960,000	ゴーセン・東亜ストリング・ヨネックス・ダンロップスポーツ・ ミズノ・グローブライド
ユニフォーム 11社	12,760,000	カワサキ・ミズノ・昭和ホールディングス・ヨネックス・ゴー セン・アシックス・ゴールドウィン・ナイキジャパン・ダンロッ プスポーツ・アディダスジャパン・グローブライド
シューズ 10社	4,440,000	アシックス・ヨネックス・ナイキジャパン・アディダスジャパ ン・ダンロップスポーツ・ミズノ・グローブライド・ゴールド ウィン・ニューバランスジャパン・アメアスポーツジャパン
計	31,140,000	

イ. 施設業者

6社：延べ7社（前年度7社）

（単位：円）

施設・製造	金額	業者名
砂入り人工芝 製造業者 7社	3,500,000	住友ゴム工業・積水樹脂・大塚ターフテック 東レ アムテックス・エスディーテック・大嘉産業・泉州敷物
人工クレーコート 製造業者 1社	500,000	大塚ターフテック
計	4,000,000	

ウ. 一般

16体 81計 1,29,000円（前年度 10団体 90名 計 1,240,000円）

50,000	内田昌一	京都						
40,000	丸菱産業(株)							
30,000	(故)林敏弘	埼玉	表 孟宏	兵庫	西村信寛	東京	小原信幸	岡山
	笠井達夫	神奈川	宮崎正巳	埼玉	ゴーセン(株)			
20,000	増田善弘	千葉	岩手県連盟		石川県連盟		(株)ダンロップスポーツ	
	ナガセケンコー(株)		ヨネックス(株)		サンコーマーク(株)		情報ネットワーク	
	(株)トーカイ		しゅくみねつと(株)		三田ソフトテニス倶楽部			
10,000	倉田裕司	大阪	(故)齋藤孝弘	千葉	奥田忠雄	岐阜	高松政男	栃木
	松田信穂	千葉	内藤享佑	東京	宮下恭子	大阪	藤原伸二	千葉
	星野 博	東京	齋藤元三	愛知	和歌浦信雄	新潟	柳下秋久	東京
	川島 登	福島	石川雅利	千葉	篠邊 保	愛知	川西 斎	奈良
	木原晴彦	広島	安藤正美	香川	白水厚二	大分	八木橋勉	東京
	林 昭文	東京	丹崎健一	東京	神崎公宏	三重	北本英幸	石川

	野際照章	京都	大川京子	千葉	林田正信	熊本	山下晴海	埼玉
	玉木進	東京	井上清一	石川	山本毅	京都	萬正一	秋田
	西島敬介	栃木	高木安一郎	静岡	本川正明	愛知	原田公夫	鳥取
	今井誠則	広島	佐野正和	静岡	今井史郎	東京	鈴木正彦	群馬
	田中美明	埼玉	佐藤栄一	群馬	笠井一栄	神奈川	藤崎俊郎	新潟
	堀内昭	長野	落合敏彦	静岡	天野晴夫	三重	木村芳雄	岐阜
	大前秀樹	広島	蒲原英敏	広島	荒畑鈴佳	岐阜	長岡敏久	埼玉
	藤島淑子	東京	川上晃司	兵庫	川野因	神奈川	斉藤広宣	千葉
	小西俊博	香川	武田博子	広島	時任宥幸	東京	保倉謙治	埼玉
	金岡昭房	宮城	國枝俊子	岐阜	中村正広	福岡	田辺理	神奈川
	山口正紀	広島	佐々木寿	北海道	萩原廣一	神奈川	中山俊介	東京
	井上光子	千葉	井上創	兵庫	伊東健	岩手	林研一	熊本
	田中正男	神奈川	佐賀県連盟		ミズノ(株)		(株)ルーセント	
	(株)はたの工芸社							

10. 補助金・助成金等に関する事項

(1) 補助金 合計額 6,972,000 円 (前年度 6,300,000 円)

(公財) 日本オリンピック委員会	選手強化事業 (ナショナルチーム強化合宿)	6,930,000
宮崎観光コンベンション協会	スポーツメディカル支援事業	42,000

(2) 助成金 合計額 59,390,440 円 (前年度 63,324,200 円)

(独法) 日本スポーツ振興センター (スポーツ振興基金助成金)	競技会開催 (全日本選手権大会)	2,000,000
	競技会開催 (JOC 杯)	1,160,000
	国内合宿	6,000,000
	指導者研修会	1,176,000
	小計	10,336,000
(独法) 日本スポーツ振興センター (スポーツ振興くじ)	競技者育成プログラム (Step-1~Step-3)	41,346,000
	ドーピング検査	5,275,000
	小計	46,621,000
長崎がんばらば国体実行委員会	国民体育大会役員旅費	908,440
(公財) ヨネックススポーツ財団	全日本若手キャンプ助成金	525,000
(公財) ミズノスポーツ振興財団	ジュニア育成に対する助成金	1,000,000

(3) 交付金 合計額 4,303,104 円 (前年度 3,212,450 円)

(公財) 日本オリンピック委員会	マーケティングプログラム交付金	3,656,000
	JOC ジュニア選手強化交付金	200,000
(公財) 日本体育協会	日本スポーツマスターズ 運営補助交付金	369,664
	専門科目終了証明書発行手数料	19,440
	スポーツ指導者育成交付金	58,000

(4) 委託金 合計額 2,018,666 円 (前年度 1,547,710 円)

(公財) 日本体育協会	日本スポーツマスターズ 委託金	1,741,130
	指導員養成講習会委託金	277,536

11. 寄付金・協賛金に関する事項

(1) 寄付金 合計額 600,000 円 (前年度 150,000 円)

(単位：円)

(故)林 敏弘名誉副会長夫人	300,000
ソフトテニスチャリティーゴルフ実行委員会	300,000

(2) 協賛金 合計額 27,150,000 円 (前年度 26,150,000 円)

(単位：円)

ミズノ (株) 「日本代表チームユニフォームオフィシャルサプライヤー協賛金」	10,000,000
(株) ゴーセン 「日本代表チームストリングオフィシャルサプライヤー協賛金」	3,300,000
ナガセケンコー (株) 「競技者育成プログラム STEP-4 協賛金」	1,300,000
昭和ホールディングス (株) 「競技者育成プログラム STEP-4 協賛金」	1,300,000
ミズノ (株) 「全日本インドア選手権大会協賛金」	250,000
ミズノ (株) 「広報活動協賛金」	7,000,000
ミズノ (株) 「国際振興協賛金」	4,000,000

(3) 新規公認 合計額 5,000,000 円 (前年度 20,000,000 円)

(単位：円)

アメアスポーツジャパン(株) 「シューズ」	5,000,000
-----------------------	-----------

12. 傷害補償制度の給付金に関する事項

34 件、1,487,000 円を給付した。(前年度：38 件 1,957,000 円)

(単位：件)

傷害の内容	一般	大学生	高専	高校生	中学生	小学生	計
アキレス腱断裂	7						7
骨折	2			3		2	7
靭帯損傷	4						4
肉離れ	2						2
その他	11			1	2		14
計	26			4	2	2	34

大会一覧表

別表1

月	日	大会名	種別	会場	参加者数
4	26～27	第17回アジア競技大会日本代表選手予選会	男子	大阪府大阪市	94
			女子	靱テニスセンター	88
			小計		182
5	17～18	第21回全日本シングルス選手権大会	男子シングルス	愛知県一宮市	229
			女子シングルス	一宮市テニス場	178
			小計		407
6	18～22	第43回ハイスクールジャパンカップ	男子ダブルス	北海道札幌市	144
			女子ダブルス	円山庭球場	144
			男子シングルス		64
			女子シングルス		64
			小計		416
	28～29	西日本シニア選手権大会	シニア男45	高知県 高知市東部総合運動場テニスコート 高知県立春野総合運動公園テニスコート	92
			シニア女45		56
			シニア男50		82
			シニア女50		76
			シニア男55		126
			シニア女55		100
			シニア男60		138
			シニア女60		96
			シニア男65		100
			シニア女65		100
			シニア男70		72
			シニア女70		52
シニア男75	30				
シニア女75	28				
シニア男80	14				
小計		1,162			
7	19～20	第69回東日本選手権大会	一般男子	青森県青森市・弘前市・むつ市 新青森県総合運動公園テニスコート 岩手山総合公園テニスコート むつ運動公園テニスコート しもきた克雪ドーム	366
			一般女子		230
			成年男子		60
			成年女子		42
			シニア男45		62
			シニア女45		36
			シニア男50		64
			シニア女50		66
			シニア男55		72
			シニア女55		66
			シニア男60		78
			シニア女60		84
			シニア男65		90
			シニア女65		116
			シニア男70		62
			シニア女70		66
			シニア男75		46
シニア女75	32				
小計		1,638			

7	19～20	第68回西日本選手権大会	一般男子	香川県	490
			一般女子	総合運動公園県営テニスコート	290
			成年男子	高松市亀水運動センター庭球場	138
			成年女子		48
			小計		
	25～27	男子第59回 女子第58回 全日本実業団選手権大会	男子団体	和歌山県	1,030
			女子団体	白浜町テニスコート	124
			小計		
	26～29	全日本高校選手権大会	女子個人	千葉県白子町 白子町サニーテニスコート	624
	女子団体		384		
	男子個人		632		
	男子団体		384		
小計			2,024		
7/30～ 8/2					
7/31 ～ 8/4	第31回全日本小学生選手権大会	男子個人	大分県大分市 大分スポーツ公園だいぎんテニスコート	384	
		男子団体		384	
		女子個人		384	
		女子団体		384	
		小計			1,536
8	1～3	第41回全日本レディース(個人戦)	ふじ(初心者)	宮崎市民文化ホール	50
			すみれ(満20歳以上)	県総合運動公園テニスコート	102
			ばら(40歳以上)	宮崎市生目の杜運動公園テニスコート	98
			ゆり(50歳以上)	宮崎市清武総合運動公園テニスコート	192
			きく(55歳以上)		256
			あやめ(60歳以上)		240
			はぎ(65歳以上)		200
			さつき(70歳以上)		88
			さくら(75歳以上)		34
			もも(80歳以上)		124
			小計		
	5～11	全日本学生選手権大会 第68回文部科学大臣杯(大学対抗) 第69回三笠宮賜杯(ダブルス) 第56回全日本学生シングルス選手権大会	男子大学対抗	熊本県 熊本県民総合運動公園テニスコート	426
女子大学対抗			パークドーム熊本	330	
男子ダブルス			阿蘇熊本空港ホテルエミナーステニスコート	924	
女子ダブルス				610	
男子シングルス				226	
女子シングルス				166	
小計			2,682		
21～23	第45回全国中学校大会	男子個人	香川県 総合運動公園テニスコート	128	
		女子個人		128	
		男子団体		200	
		女子団体		200	
		小計			656
19～21	第36回全日本レディース決勝大会 (都道府県対抗団体戦)	都道府県対抗	宮城県仙台市 総合運動場泉庭球場・シュルコムせん だい	499	
9	6～7	第42回全日本社会人選手権大会	一般男子	京都府福知山市・舞鶴市	598
			一般女子	三段池公園テニスコート	234
			成年男子	市民運動庭球場	258
			成年女子	東舞鶴公園テニスコート	52
			小計		

9	12～17	第18回全日本シニア選手権大会	男子45	徳島県徳島市・阿南市 大神子テニスコート他	180
			女子45		82
			男子50		164
			女子50		122
			男子55		198
			女子55		144
			男子60		246
			女子60		146
			男子65		186
			女子65		134
			男子70		120
			女子70		72
			男子75		48
			女子75		30
			男子80		18
			混合45		62
			混合50		80
			混合55		108
			混合60		134
			混合65		116
小計				2,390	
13～14	第21回JOC杯・全日本ジュニア選手権大会	男子(U-14)	広島県広島市 広島市中央庭球場	15	
		女子(U-14)		13	
		男子(U-17)		36	
		女子(U-17)		36	
		男子(U-20)		28	
		女子(U-20)		33	
小計				161	
20～22	日本スポーツマスターズ2014	都道府県対抗	埼玉県熊谷市 熊谷さくら運動公園	310	
10	13～16	第69回国民体育大会	少年男子	長崎県佐世保市 総合グラウンド庭球場	96
			少年女子		282
			成年男子		96
			成年女子		96
			小計		
24～26	第69回天皇賜杯皇后賜杯 全日本選手権大会	男子	秋田県大館市	364	
		女子	高館テニスコート	330	
小計				694	
10/31 ～ 11/2	第28回日本実業団リーグ	男子団体	京都府福知山市	242	
		女子団体	三段池公園テニスコート・市民運動庭球場	68	
		小計			
11	1～2	第20回全日本クラブ選手権大会	男子団体	千葉県白子町	1,260
			女子団体	白子町サニーテニスコート他	307
			小計		
8～9	第15回世界選手権大会 日本代表予選会	男子	山口県宇部市	90	
		女子	宇部マテ”フレッセラ”テニスコート	84	
		小計			

11	14～17	第9回ジュニアジャパンカップ	男子シングルス(U-14)	宮崎県宮崎市 生目の杜運動公園テニスコート 久峰総合公園テニスコート	37			
			女子シングルス(U-14)		34			
			男子シングルス(U-17)		36			
			女子シングルス(U-17)		37			
			男子シングルス(U-20)		33			
			女子シングルス(U-20)		42			
			男子ダブルス(U-14)		38			
			女子ダブルス(U-14)		36			
			男子ダブルス(U-17)		36			
			女子ダブルス(U-17)		38			
			男子ダブルス(U-20)		34			
			女子ダブルス(U-20)		42			
			小計				443	
			12		21～24	第32回日本リーグ	男子	広島県広島市
女子	広島県立総合体育館	56						
小計				119				
2	1	第60回全日本インドア選手権	男子	大阪府大阪市	24			
			女子	大阪市中央体育館	24			
			小計				48	
	7	日本リーグ入替戦	男子	愛知県名古屋市	32			
			女子	露橋スポーツセンター	28			
			小計				60	
3	26～28	第26回都道府県対抗全日本中学生大会	男子団体	三重県伊勢市	384			
			女子団体	三重県営サンアリーナ	384			
			男子ダブルス	三重県営総合競技場体育館	288			
			女子ダブルス	伊勢市営庭球場	288			
			男子シングルス		96			
			女子シングルス		96			
			小計				1,536	
	29～30	第40回全日本高等学校選抜大会	男子団体	愛知県名古屋市	576			
			女子団体	日本ガイシスポーツプラザ	576			
			小計				1,152	
	29～31	第14回全国小学生大会	男子6年生の部	千葉県白子町	88			
			女子6年生の部	白子町サニーテニスコート他	88			
			男子5年生の部		330			
			女子5年生の部		340			
			男子4年生以下の部		330			
女子4年生以下の部				340				
小計				1,516				

技術等級認定実績

別表2

平成27年3月31日現在

支部名	名誉指導員	Ma	Ex	S-Ex	Sp	S-Sp	1級	2級	3級	4級	合計
1 北海道	0	0	3	0	10	0	11	39	21	0	84
2 青森県	0	0	0	0	11	0	1	19	10	36	77
3 岩手県	1	0	3	1	5	0	0	12	24	0	46
4 宮城県	0	0	0	0	7	0	0	10	20	0	37
5 秋田県	0	0	1	0	15	0	1	12	31	0	60
6 山形県	0	0	0	0	6	0	6	0	24	0	36
7 福島県	0	0	0	0	10	0	5	20	74	0	109
8 茨城県	0	0	2	0	8	0	15	7	107	19	158
9 栃木県	0	0	0	1	5	0	2	68	57	32	165
10 群馬県	0	0	2	0	6	0	10	26	33	30	107
11 埼玉県	0	0	1	3	11	2	28	74	55	31	205
12 千葉県	0	0	0	1	6	0	2	23	16	24	72
13 東京都	0	0	5	2	9	3	11	23	21	14	88
14 神奈川県	0	0	0	0	4	0	0	27	31	2	64
15 山梨県	0	0	0	0	3	0	5	48	30	43	129
16 新潟県	0	0	0	0	5	0	4	15	23	0	47
17 長野県	0	0	1	0	7	0	2	10	51	2,187	2,258
18 富山県	0	0	3	0	10	0	1	9	6	47	76
19 石川県	0	0	2	0	10	1	6	19	31	25	94
20 福井県	0	0	0	0	2	0	0	3	1	20	26
21 静岡県	0	0	0	1	5	0	4	17	40	2	69
22 愛知県	0	0	4	8	11	2	14	69	41	98	247
23 三重県	0	0	3	0	7	0	9	22	30	20	91
24 岐阜県	0	0	2	0	1	0	15	30	29	6	83
25 滋賀県	0	0	0	0	5	0	3	20	26	13	67
26 京都府	0	0	1	0	4	0	4	30	6	15	60
27 大阪府	0	0	2	0	14	2	6	66	29	15	134
28 兵庫県	0	0	0	0	7	1	18	92	17	11	146
29 奈良県	0	0	0	0	15	0	6	5	20	0	46
30 和歌山県	0	0	2	0	5	0	4	7	15	32	65
31 鳥取県	0	0	0	0	4	0	0	4	3	22	33
32 島根県	0	0	0	0	5	0	2	8	1	23	39
33 岡山県	0	0	4	1	8	1	2	44	27	0	87
34 広島県	0	0	0	0	4	0	17	43	26	0	90
35 山口県	0	0	1	0	2	0	11	55	20	0	89
36 徳島県	0	0	5	0	12	0	2	7	17	0	43
37 香川県	0	0	6	0	14	0	1	11	11	7	50
38 愛媛県	0	0	0	1	1	0	3	2	21	24	52
39 高知県	0	0	0	0	11	0	2	1	2	19	35
40 福岡県	0	0	2	0	9	0	3	8	27	0	49
41 佐賀県	0	0	0	0	1	0	1	0	22	0	24
42 長崎県	0	0	0	0	5	0	2	5	22	20	54
43 熊本県	0	0	0	0	7	0	6	94	292	337	736
44 大分県	0	0	0	0	2	0	0	0	14	7	23
45 宮崎県	0	0	0	0	3	0	0	53	40	0	96
46 鹿児島県	0	0	1	0	4	1	0	0	35	0	41
47 沖縄県	0	0	0	0	0	0	0	3	33	0	36
48 日本学連	0	0	22	0	83	0	50	35	0	2	192
合計	1	0	78	19	399	13	295	1,195	1,532	3,183	6,715
前年度	1	0	91	22	344	26	350	1,143	1,585	3,354	6,916

公認審判員認定実績

別表3

平成27年3月31日現在

No	支部	認定者数									合計
		マスター レフェリー	マスター アンパイヤー	1級審判員		2級審判員				ジュニア	
				新規	更新	一般		高校			
						新規	更新	新規	移行		
1	北海道	2	0	2	7	128	177	314	620	2,352	3,602
2	青森県	0	0	1	5	46	10	208	67	182	519
3	岩手県	0	0	4	8	91	98	144	512	1,643	2,500
4	宮城県	0	0	1	4	61	130	708	156	1,510	2,570
5	秋田県	0	0	1	7	68	56	83	196	938	1,349
6	山形県	0	0	1	2	78	59	161	229	786	1,316
7	福島県	0	0	4	6	105	103	133	468	2,567	3,386
8	茨城県	9	0	2	1	110	58	771	86	264	1,301
9	栃木県	1	1	3	4	98	62	461	52	106	788
10	群馬県	1	2	2	0	40	115	331	99	240	830
11	埼玉県	1	1	10	7	218	399	1,286	431	3,936	6,289
12	千葉県	1	0	0	9	118	250	653	579	3,611	5,221
13	東京都	4	11	4	0	175	154	165	42	77	632
14	神奈川県	0	3	3	0	146	93	139	504	7,463	8,351
15	山梨県	2	2	1	5	38	15	249	40	131	483
16	新潟県	1	12	1	5	56	67	144	418	2,467	3,171
17	長野県	3	0	0	1	94	141	483	50	78	850
18	富山県	0	0	0	0	49	22	344	7	50	472
19	石川県	0	0	2	2	33	48	54	288	445	872
20	福井県	0	0	0	1	19	29	108	28	44	229
21	静岡県	1	4	2	6	162	121	149	423	3,848	4,716
22	愛知県	0	2	0	8	314	255	1,141	37	158	1,915
23	三重県	6	0	1	2	43	88	139	45	87	411
24	岐阜県	0	0	3	3	74	48	330	68	150	676
25	滋賀県	0	0	0	1	52	47	511	34	19	664
26	京都府	1	0	3	1	58	73	471	35	125	767
27	大阪府	0	0	3	2	128	152	244	19	72	620
28	兵庫県	0	0	0	8	232	84	48	7	32	411
29	奈良県	0	0	2	2	56	88	310	25	20	503
30	和歌山県	0	0	8	2	21	86	32	0	81	230
31	鳥取県	0	0	2	3	27	16	19	14	49	130
32	島根県	0	0	0	1	18	22	257	19	66	383
33	岡山県	2	3	3	7	56	58	78	58	110	375
34	広島県	7	0	0	4	114	159	923	52	88	1,347
35	山口県	3	1	1	5	53	112	474	82	208	939
36	徳島県	0	0	0	14	20	26	197	0	6	263
37	香川県	0	0	2	0	34	31	215	44	93	419
38	愛媛県	3	0	0	3	44	58	13	32	235	388
39	高知県	0	0	0	3	11	18	100	13	22	167
40	福岡県	3	0	1	2	109	146	364	78	488	1,191
41	佐賀県	1	0	0	1	28	32	60	184	1,121	1,427
42	長崎県	0	0	0	8	134	77	94	230	1,410	1,953
43	熊本県	0	0	3	4	59	51	165	305	1,671	2,258
44	大分県	2	0	0	0	71	32	36	28	191	360
45	宮崎県	3	0	0	2	10	39	16	12	118	200
46	鹿児島県	1	0	3	0	86	148	101	35	150	524
47	沖縄県	0	0	0	3	5	35	43	36	149	271
48	日本学連	0	0	0	0	704	547	0	0	0	1,251
合計		58	42	79	169	4,494	4,735	13,469	6,787	39,657	69,490
前年度		41	45	63	152	4,353	5,027	13,155	5,473	36,545	64,854

会員登録集計表(平成26年度)

別表4

平成27年3月31日現在

支部名	指導者	一般		小学生		中学生		高校生		高専		大学生		合計	
	会員数	団体数	会員数	団体数	会員数	団体数	会員数	団体数	会員数	団体数	会員数	団体数	会員数	団体数	会員数
北海道	240	174	2,230	37	582	272	8,073	150	3,405	3	93	0	6	636	14,629
青森	262	49	494	12	176	102	3,938	42	902	0	0	2	23	207	5,795
岩手	340	60	1,113	31	388	134	4,416	68	1,823	1	27	0	17	294	8,124
宮城	109	67	780	19	424	167	5,058	80	2,477	2	28	1	16	336	8,892
秋田	209	37	555	15	333	75	2,539	43	1,048	1	17	0	4	171	4,705
山形	150	36	518	19	407	70	3,020	43	1,345	1	9	0	0	169	5,449
福島	375	76	662	26	545	157	7,114	73	1,639	1	39	0	1	333	10,375
茨城	416	69	854	19	607	199	9,535	81	2,167	0	0	0	3	368	13,582
栃木	37	41	841	16	364	127	5,764	50	1,264	0	21	0	32	234	8,323
群馬	120	47	941	21	661	152	7,214	51	1,326	1	10	1	19	273	10,291
埼玉	209	206	3,931	32	1,053	376	19,536	132	4,463	0	2	0	164	746	29,358
千葉	662	111	1,866	20	519	337	18,021	118	3,144	1	11	0	16	587	24,239
東京	206	135	2,937	25	449	250	8,065	182	4,460	1	10	0	102	593	16,229
神奈川	551	98	1,097	14	368	356	20,866	125	2,906	0	0	0	17	593	25,805
山梨	28	47	525	15	327	36	788	32	927	0	0	0	20	130	2,615
新潟	200	58	863	21	465	158	5,065	63	1,365	1	15	0	1	301	7,974
長野	141	36	1,425	17	435	121	4,620	71	1,606	1	15	0	10	246	8,252
富山	77	23	374	16	367	61	2,623	28	925	0	0	0	0	128	4,366
石川	39	50	648	22	402	71	3,681	37	1,070	2	8	1	47	183	5,895
福井	52	37	470	5	164	39	1,547	16	587	1	11	0	2	98	2,833
静岡	622	129	1,536	27	817	316	13,971	79	1,528	1	16	1	21	553	18,511
愛知	250	173	3,019	19	706	346	19,601	144	5,871	0	27	0	49	682	29,523
三重	83	49	636	16	342	151	6,731	49	1,287	1	7	0	12	266	9,098
岐阜	45	59	882	31	598	258	7,199	50	1,875	0	16	0	13	398	10,628
滋賀	73	33	510	12	384	74	994	40	1,514	0	0	1	18	160	3,493
京都	99	86	824	16	398	114	3,964	56	1,545	0	0	0	1	272	6,831
大阪	290	95	1,790	13	258	292	10,174	190	3,136	0	0	0	5	590	15,653
兵庫	225	77	1,474	19	284	308	16,643	148	4,995	2	43	0	3	554	23,667
奈良	122	37	949	8	127	65	3,044	27	945	0	0	0	0	137	5,187
和歌山	135	58	734	17	224	108	3,805	27	783	1	32	0	0	211	5,713
鳥取	88	33	396	12	193	35	1,145	23	506	1	19	0	1	104	2,348
島根	89	47	386	10	238	53	1,839	39	821	1	2	0	3	150	3,378
岡山	154	66	678	13	207	138	5,842	66	2,017	1	29	0	0	284	8,927
広島	202	116	1,368	14	274	144	5,514	99	2,689	2	81	0	93	375	10,221
山口	164	69	1,133	10	310	106	4,676	53	1,588	3	79	0	21	241	7,971
徳島	132	23	316	7	127	99	2,357	25	506	1	30	0	0	155	3,468
香川	75	28	355	9	255	47	2,304	30	732	2	8	0	1	116	3,730
愛媛	157	34	577	13	271	134	4,358	66	1,275	1	62	0	15	248	6,715
高知	41	26	328	11	155	36	1,144	22	391	1	5	0	13	96	2,077
福岡	514	79	1,085	17	373	191	7,540	141	2,755	4	77	0	92	432	12,436
佐賀	207	22	390	13	301	74	3,116	39	861	0	0	0	2	148	4,877
長崎	433	55	881	16	328	151	4,857	103	1,937	2	41	0	64	327	8,541
熊本	449	63	896	18	328	148	5,152	60	1,406	2	39	1	9	292	8,279
大分	175	55	612	9	155	101	2,474	27	656	0	24	0	36	192	4,132
宮崎	293	58	561	18	374	152	3,318	36	895	1	28	0	1	265	5,470
鹿児島	327	111	1,115	38	375	189	5,004	78	1,240	2	51	1	36	419	8,148
沖縄	95	41	675	11	128	47	1,257	32	361	0	1	0	33	131	2,550
日本学連	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23	438	6,627	438	6,651
合計	9,963	3,179	47,230	819	17,566	7,137	289,506	3,234	82,964	46	1,056	447	7,669	14,862	455,954
昨年度	9,268	3,184	48,324	809	17,260	7,133	286,326	3,256	81,402	47	1,037	457	7,610	14,886	451,227

平成26年度

決算報告書

(平成26年4月 1日～平成27年3月31日)

財務諸表等

(1) 貸借対照表

平成27年3月31日現在

単位:円

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	64,614,172	72,103,902	△ 7,489,730
未収金	36,391,438	38,439,907	△ 2,048,469
貯蔵品	8,518,411	8,874,587	△ 356,176
流動資産合計	109,524,021	119,418,396	△ 9,894,375
2. 固定資産			
(1)基本財産	150,000,000	150,000,000	0
定期預金	36,186,742	41,471,900	△ 5,285,158
有価証券	113,813,258	108,528,100	5,285,158
基本財産合計	150,000,000	150,000,000	0
(2)特定資産	108,058,739	96,579,739	11,479,000
退職給付引当資産	19,558,739	18,079,739	1,479,000
資産取得資金積立金	30,000,000	20,000,000	10,000,000
国際大会積立金	58,500,000	58,500,000	0
特定資産合計	108,058,739	96,579,739	11,479,000
(3)その他固定資産	166,374,941	148,008,535	18,366,406
建物及び付属設備	84,563,835	86,155,209	△ 1,591,374
器具備品	233,168	269,998	△ 36,830
土地	61,583,328	61,583,328	0
投資有価証券	19,994,610	0	19,994,610
その他固定資産	166,374,941	148,008,535	18,366,406
固定資産合計	424,433,680	394,588,274	29,845,406
資産合計	533,957,701	514,006,670	19,951,031
II 負債の部			
1. 流動負債	4,895,956	32,024,950	△ 27,128,994
未払金	3,156,170	29,594,515	△ 26,438,345
預り金	255,178	269,682	△ 14,504
前受金	0	810,000	△ 810,000
賞与引当金	1,484,608	1,350,753	133,855
流動負債合計	4,895,956	32,024,950	△ 27,128,994
2. 固定負債	21,110,650	19,626,075	1,484,575
退職給付引当金	21,110,650	19,626,075	1,484,575
固定負債合計	21,110,650	19,626,075	1,484,575
負債合計	26,006,606	51,651,025	△ 25,644,419
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産	0	0	0
指定正味財産 (うち特定資産への充当額)	0	0	0
2. 一般正味財産	535,305,071	462,355,645	72,949,426
(うち基本財産への充当額)	(150,000,000)	(150,000,000)	0
(うち特定資産への充当額)	(88,500,000)	(78,500,000)	(10,000,000)
正味財産合計	507,951,095	462,355,645	45,595,450
負債及び正味財産合計	533,957,701	514,006,670	19,951,031

(2) 正味財産増減計算書

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

単位:円

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用収入	1,467,520	1,126,583	340,937
会費収入	300,503,500	296,529,500	3,974,000
事業収入	159,047,504	157,308,697	1,738,807
補助金等収入	72,684,210	74,384,360	△ 1,700,150
協賛金寄付金収入	32,750,000	46,300,000	△ 13,550,000
雑収入	7,453,484	4,514,610	2,938,874
経常収益計	573,906,218	580,163,750	△ 6,257,532
(2) 経常費用			
事業費	227,388,261	219,820,068	7,568,193
管理費	116,433,605	112,148,097	4,285,508
加盟費	1,034,750	1,101,297	△ 66,547
競技力向上費	157,336,463	159,490,427	△ 2,153,964
指導者育成事業費	9,322,958	10,077,953	△ 754,995
大会開催等関係費	18,113,903	18,262,738	△ 148,835
スポーツマスターズ参加支援費	3,025,272	3,327,090	△ 301,818
減価償却費	1,628,204	1,650,216	△ 22,012
経常費用計	534,283,416	525,877,886	8,405,530
評価損益等調整前当期経常増減額	39,622,802	54,285,864	△ 14,663,062
基本財産評価損益等	5,862,138	0	5,862,138
特定資産評価損益等	306,000	0	306,000
投資有価証券評価損益等	△ 195,490	0	△ 195,490
評価損益等 計	5,972,648	0	5,972,648
当期経常増減額	45,595,450	54,285,864	△ 8,690,414
2. 経常外増減の部	0	0	0
(1) 経常外収益	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	45,595,450	54,285,864	△ 8,690,414
法人税、住民税及び事業税	0	0	0
法人税等調整額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	45,595,450	54,285,864	△ 8,690,414
一般正味財産期首残高	462,355,645	408,069,781	54,285,864
一般正味財産期末残高	507,951,095	462,355,645	45,595,450
II 指定正味財産増減の部	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	507,951,095	462,355,645	45,595,450

(3)正味財産増減計算書内訳表
平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

(単位:円)

区 分	公益目的事業会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1). 経常収益			
基本財産運用収入	1,467,520	0	1,467,520
会費収入	208,374,936	92,128,564	300,503,500
事業収入	159,047,504	0	159,047,504
補助金収入	72,684,210	0	72,684,210
協賛金寄付金収入	32,750,000	0	32,750,000
雑収入	7,453,484	0	7,453,484
経常収益計	481,777,654	92,128,564	573,906,218
(2). 経常費用			
事業費	481,777,654	0	481,777,654
役員報酬	4,080,000	0	4,080,000
給料	11,419,964	0	11,419,964
職員手当等	5,409,913	0	5,409,913
退職給付費用	905,591	0	905,591
福利厚生費	3,610,235	0	3,610,235
賞与引当金繰入	905,611	0	905,611
旅費交通費	97,175,981	0	97,175,981
通信運搬費	12,645,710	0	12,645,710
支払手数料	8,748,419	0	8,748,419
減価償却費	1,001,789	0	1,001,789
会議費	23,393,128	0	23,393,128
備品購入費	0	0	0
消耗品費	7,096,177	0	7,096,177
修繕費	0	0	0
印刷製本費	14,413,540	0	14,413,540
光熱水費	585,853	0	585,853
賃借料	8,650,980	0	8,650,980
保険料	1,231,604	0	1,231,604
諸謝金	6,282,890	0	6,282,890
報償費	22,525,849	0	22,525,849
租税公課	2,760,573	0	2,760,573
支払負担金	98,515,880	0	98,515,880
支払助成金	87,606,592	0	87,606,592
支払寄付金	0	0	0
委託費	59,003,879	0	59,003,879
渉外交際費	193,700	0	193,700
雑費	3,613,796	0	3,613,796

区 分	公益目的事業会計	法人会計	合計
管理費	0	52,505,762	52,505,762
役員報酬	0	1,920,000	1,920,000
給料	0	9,151,476	9,151,476
職員手当等	0	3,004,403	3,004,403
退職給付費用	0	578,984	578,984
福利厚生費	0	2,308,183	2,308,183
賞与引当金繰入	0	578,997	578,997
旅費交通費	0	13,976,920	13,976,920
通信運搬費	0	2,407,349	2,407,349
支払手数料	0	424,885	424,885
減価償却費	0	626,415	626,415
会議費	0	1,077,197	1,077,197
備品購入費	0	0	0
消耗品費	0	1,789,167	1,789,167
修繕費	0	0	0
印刷製本費	0	685,699	685,699
光熱水費	0	374,561	374,561
賃借料	0	2,427,933	2,427,933
保険料	0	150,300	150,300
諸謝金	0	0	0
報償費	0	56,160	56,160
租税公課	0	1,764,957	1,764,957
支払負担金	0	0	0
支払助成金	0	0	0
支払寄付金	0	0	0
委託費	0	7,912,185	7,912,185
渉外交際費	0	1,041,500	1,041,500
雑費	0	248,490	248,490
経常費用計	481,777,654	52,505,762	534,283,416
評価損益等調整前当期経常増減額	0	39,622,802	39,622,802
基本財産評価損益等	5,862,138	0	5,862,138
特定資産評価損益等	186,660	119,340	306,000
投資有価証券評価損益等	△ 119,249	△ 76,241	△ 195,490
評価損益等 計	5,929,549	43,099	5,972,648
当期経常増減額	5,929,549	39,665,901	45,595,450
2. 経常外増減の部	0	0	0
(1) 経常外収益	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	5,929,549	39,665,901	45,595,450
一般正味財産期首残高	206,052,220	256,303,425	462,355,645
一般正味財産期末残高	211,981,769	295,969,326	507,951,095
II 指定正味財産増減の部	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
当期指定正味財産期首残高	0	0	0
当期指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	211,981,769	295,969,326	507,951,095

(4) 財務諸表の注記

1. 重要な会計方針

(1)有価証券の評価基準及び評価方法

- ① 満期保有目的の債券……償却原価法(定額法)によっている。
但し、取得価額と債券金額との差額について重要性が乏しい場合は、
償却原価法を適用していない。
- ② その他の有価証券……期末日の市場価額等に基づく時価法(売却原価は移動平均法により算定)
によっている。

(2)棚卸資産の評価基準及び評価方法

- ① 貯蔵品……個別法による原価法によっている。

(3)有形固定資産の減価償却の方法

- 什器備品……法人税法で規定する定率法によっている。
建物及び附属設備……法人税法で規定する定額法によっている。

(4)引当金の計上基準

- ① 退職給付引当金……職員の退職給付に備えるため、退職給与の当期末要支給額に相当する金額
を計上している。
- ② 賞与引当金……職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を
計上している。

(5)消費税等の会計処理

- 税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産・特定資産の増減額及びその残高は、次の通りである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	41,471,900		5,285,158	36,186,742
有価証券	108,528,100	5,285,158		113,813,258
小計	150,000,000	5,285,158	5,285,158	150,000,000
特定資産				
退職給付引当資産				
定期預金	8,079,739	1,500,000	0	9,579,739
有価証券	10,000,000	0	21,000	9,979,000
資産取得資金積立金	20,000,000	10,000,000	0	30,000,000
国際大会積立金	58,500,000	0	0	58,500,000
小計	96,579,739	11,500,000	21,000	108,058,739
合計	246,579,739	16,785,158	5,306,158	258,058,739

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次の通りである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産から の充当額)	(うち一般正味財産から の充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
定期預金	36,186,742		(36,186,742)	
有価証券	113,813,258		(113,813,258)	
小計	150,000,000		(150,000,000)	
特定資産				
退職給付引当資産	19,558,739			(19,558,739)
資産取得資金積立金	30,000,000		(30,000,000)	
国際大会積立金	58,500,000		(58,500,000)	
小計	108,058,739		(88,500,000)	(19,558,739)
合計	258,058,739		(238,500,000)	(19,558,739)

4. 担保に供している資産
該当事項なし

5. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高(直接法により減価償却を行なっている)
(単位:円)

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物及び附属設備	88,409,655	3,845,820	84,563,835
什器備品	798,215	565,047	233,168
合計	89,207,870	4,410,867	84,797,003

6. 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高
(単位:円)

科目	債権金額	貸倒引当金の当期末残高	債権の当期末残高
未収入金	36,391,438	0	36,391,438
合計	36,391,438	0	36,391,438

7. 保証債務等の偶発債務
該当事項なし

8. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益
満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次の通りである。

(単位:円)

科目	帳簿価額	時価	評価損益
合計	0	0	0

注1 当期において、公益事業をより弾力的に運営するために保有目的を変更し、公益目的事業充実化の資金確保目的で満期償還前に売却した。

売却価額、売却原価、売却損益は、次の通りである。(単位:円)

科目	売却価額	売却原価	売却損益
第120回利付国債(20年)	43,688,400	39,754,000	3,934,400
第62回利付国債(20年)	30,697,500	29,774,100	923,400
第11回三菱信託銀行社債(10年)	10,426,000	10,000,000	426,000
合計	84,811,900	79,528,100	5,283,800

東京都再生債39,000,000円は、平成26年12月16日満期償還した。

時価評価による損益は、次の通りである。(単位:円)

科目	取得価格	時価	評価損益
第10回利付国債(30年)	29,476,500	30,573,240	1,096,740
第45回利付国債(30年)	41,369,200	41,448,320	79,120
第7回利付国債(40年)	41,963,220	41,791,698	△ 171,522
第46回ソフトバンク株式会社	10,099,000	9,979,000	△ 120,000
第2回ソフトバンク株式会社	10,000,000	9,921,610	△ 78,390
第41回ソフトバンク株式会社	10,190,100	10,073,000	△ 117,100
合計	143,098,020	143,786,868	688,848

9. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次の通りである。

(単位:円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
日本スポーツマスターズ委託金交付金	(公財)日本体育協会	0	2,110,794	2,110,794	0	一般正味財産
スポーツ指導者育成交付金	同上	0	335,536	335,536	0	〃
専門科目終了証明書発行手数料	同上	0	19,440	19,440	0	〃
スポーツ振興基金助成金	(独法)日本スポーツ振興センター	0	10,336,000	10,336,000	0	〃
スポーツ振興くじ助成金	同上	0	46,621,000	46,621,000	0	〃
26年度選手強化委託金	(公財)日本オリンピック委員会	0	6,930,000	6,930,000	0	〃
26年度JOCジュニア強化交付金	同上	0	200,000	200,000	0	〃
マーケティングプログラム交付金	同上	0	3,656,000	3,656,000	0	〃
国民体育大会役員旅費	長崎がんばらんば国体実行委員会	0	908,440	908,440	0	〃
全日本若手キャンプ助成金	(公財)ヨネックススポーツ振興財団	0	525,000	525,000	0	〃
ジュニア育成に対する助成金	(公財)ミズノスポーツ振興財団	0	1,000,000	1,000,000	0	〃
スポーツメディカル支援補助金	みやざき観光コンベンション協会	0	42,000	42,000	0	〃
合計		0	72,684,210	72,684,210	0	-

10. 重要な後発事象

該当事項なし

(5) 附属明細書

1. 基本財産および特定資産

基本財産および特定資産の明細については、財務諸表の注記において記載している。

2. 引当金の明細

引当金の当期の増減額および残高は、次の通りである。

(単位:円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	1,350,753	1,484,608	1,350,753	0	1,484,608
退職給付引当金	19,626,075	1,484,575	0	0	21,110,650

3. その他貸借対照表及び正味財産増減計算書の内容を補足する重要な事項

該当事項はない。

(6) 財産目録

(平成27年3月31日現在)

単位:円

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額		
(流動資産)	現金	現金手許有高	運転資金として 201,906		
	定期預金	三菱東京UFJ銀行渋谷中央支店、大井町支店	同上 1,471,900		
		静岡銀行大井町支店	31,004,338		
	普通預金	三菱東京UFJ銀行渋谷中央支店、大井町支店	同上 31,059,790		
		静岡銀行大井町支店他	同上 137		
		京都中央信用金庫	同上 263,628		
		青梅信用金庫	同上 112,140		
		枚方信用金庫	同上 134,033		
	郵便振替	ゆうちょ銀行	同上 366,300		
	未収金	スポーツ振興センター他	(現金預金計) 公益目的事業・受取補助金他 27,353,976		
株式会社デジタルガレージ他		未収分として 公益目的事業・審判、技術等級 認定料他未収分として 9,037,462			
貯蔵品	明宏印刷株式会社他	(未収金計) 公益目的事業・審判、技術等級 認定用教材、用品として 8,518,411			
		(貯蔵品計) 8,518,411			
流動資産合計			109,524,021		
(固定資産)	基本財産	定期預金	京都中央信用金庫 10,000,000		
		青梅信用金庫 10,000,000			
		枚方信用金庫 10,000,000			
	有価証券	静岡銀行大井町支店他 6,186,742			
		第45回利付国債(30年) 41,448,320			
		第10回利付国債(30年) 30,573,240			
		第7回利付国債(40年) 41,791,698			
	(基本財産計)			150,000,000	
	特定資産	退職給付引当資産	第46回ソフトバンク(株) 9,979,000		
		定期預金・三菱東京UFJ銀行大井町支店 9,579,739			
		資産取得資金積立金	定期預金・三菱東京UFJ銀行 30,000,000		
	国際大会積立金	定期預金・三菱東京UFJ銀行 58,500,000			
		(特定資産計)			108,058,739
		その他固定資産	建物及び付属設備	ブリリア大井町ラヴィアンタワー 鉄筋コンクリート造2階 東京都品川区大井1-16-2-201 149.79平米 84,563,835	
			器具備品	ブリリア大井町ラヴィアンタワー内ラック 211,156	
土地	スピードラップ・超音波治療器 22,012				
	ブリリア大井町ラヴィアンタワー用地 61,583,328				
	東京都品川区大井1-16-2-201 共有持分 24.86平米				
投資有価証券	第2回ソフトバンク(株) 9,921,610				
	第41回ソフトバンク(株) 10,073,000				
(その他固定資産計)			166,374,941		
固定資産合計			424,433,680		
資産合計			533,957,701		
(流動負債)	未払金	品川税務署他 1,747,000			
		株式会社デジタルガレージ他 1,409,170			
	(未払金計)			3,156,170	
	預り金 賞与引当金	品川税務署 職員分 1,484,608			
源泉徴収税預り分として 公益目的事業と運営管理業務 に従事する職員の賞与として			255,178		
流動負債合計			4,895,956		
(固定負債)	退職給付引当金	職員分 21,110,650			
公益目的事業と運営管理業務 に従事する職員の退職給付金として			21,110,650		
固定負債合計			21,110,650		
負債合計			26,006,606		
正味財産			507,951,095		

独立監査人の監査報告書

平成27年5月15日

公益財団法人日本ソフトテニス連盟

会長 表 孟宏 殿

櫻井公認会計士事務所

公認会計士



<財務諸表監査>

私は、公益財団法人日本ソフトテニス連盟の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの平成26年事業年度の貸借対照表及び損益計算書（公益認定等ガイドラインI-5（1）の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）並びにその附属明細書並びに財務諸表に対する注記について監査し、併せて、正味財産増減計算書内訳表（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

財務諸表等に対する理事者の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

私の責任は、私が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。

監査の基準は、私に財務諸表等に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表等の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。

監査手続は、私の判断により、不正又は誤謬による財務諸表等の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、私は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表等の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表等の表示を検討することが含まれる。

私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産、損益（正味財産増減）の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<財産目録に対する意見>

私は、公益財団法人日本ソフトテニス連盟の平成27年3月31日現在の平成26年事業年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

財産目録に対する理事者の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監査人の責任

私の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

財産目録に対する監査意見

私は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

利害関係

公益財団法人日本ソフトテニス連盟と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

平成 27 年 5 月 18 日

監 査 報 告 書

公益財団法人 日本ソフトテニス連盟
会 長 表 孟 宏 殿

公益財団法人 日本ソフトテニス連盟

監事 井上清一 
監事 萬正 
監事 山本毅 

私たち監事は、平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日までの事業年度の理事の職務執行を監査いたしました。

その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

- (1) 各監事は理事会等重要な会議に出席し、理事及び担当職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。
- (2) 当該事業年度に係る会計帳簿及び財務諸表（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2. 監査意見

(1) 事業報告書等の監査結果

- ①事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ②理事の職務執行に関しては、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 財務諸表及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

財務諸表及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以上